

哲學研究

第三十五卷 第二册
第四百號
別册

總目次
(第一卷—第三十四卷)

京都大學文學部內
京都哲學會

第一卷 大正五年

現代の哲學……………(第一冊 一)―四(41)……………西田幾多郎

精神物理的法則……………(第一冊 四(42)―五(39))……………千葉 胤成

佛像の美術史的研究……………(第一冊 六(60)―一〇(104))……………松本文三郎

社會的教育學の過去及將來……………(第一冊 一〇(105)―一六(119))……………小西 重直

ベルナルド……………(第二冊 一八(122)―二〇(128))……………高田 保馬

社會意識の成立……………(第二冊 一八(122)―二〇(128))……………高田 保馬

普遍に就いて……………(第二冊 二一(177)―二〇(210))……………田邊 元

繪畫に於ける自然性の價值……………(第三冊 一(269)―三(293))……………植田 壽藏

一九一〇年以後のカンチエンスキイ……………(第三冊 四(45)―七(47))……………植田 壽藏

正義觀念の變遷……………(第三冊 二(294)―五(318))……………藤井健治郎

社會の本質に關する考察……………(第三冊 六(354)―七(363))……………高田 保馬

心能の相關研究上の一問題……………(第三冊 九(363)―一〇(375))……………楢崎淺太郎

宗教的精練の内容及基礎……………(第三冊 一〇(376)―一二(384))……………宇野 圓空

支那上代の巫巫威に就いて……………(第四冊 一(395)―二(412))……………狩野 直喜

ボルツァーノの哲學……………(第四冊 二(413)―五(447))……………中川 得立

感情移入說非難概括……………(第四冊 一〇(500)―一二(508))……………深田 康算

メーヌ・ドゥ・ピランの出づる迄……………(第五冊 一(515)―三(536))……………錦田 義富

集團心理現象の概念及び本質……………(第五冊 三(537)―五(565))……………米田庄太郎

……………(第六冊 七(711)―一〇(742))……………米田庄太郎

……………(第七冊 七(821)―一〇(854))……………米田庄太郎

經濟哲學の問題……………(第五冊 三(566)―六(590))……………左右田喜一郎

感情に關する一新學說……………(第五冊 七(591)―一〇(604))……………千葉 胤成

東方亞細亞の教育に關する一節……………(第五冊 九(604)―一〇(618))……………小西 重直

リツケルトの歴史……………(第五冊 一〇(618)―一一(624))……………安部晴之助

學の觀念に就て……………(第五冊 一〇(618)―一一(624))……………安部晴之助

フイヒテの宗……………(第六冊 一(639)―三(662))……………朝永三十郎

教育學の發展……………(第六冊 二(663)―五(680))……………朝永三十郎

カントの「判斷力批判」に就て……………(第六冊 三(663)―五(680))……………深田 康算

メーヌ・ドゥ・ピラン……………(第六冊 七(711)―一〇(742))……………米田庄太郎

一實踐的感覚主義より理論的感覚主義へ……………(第六冊 七(711)―一〇(742))……………米田庄太郎

人格の權利に就て……………(第六冊 一〇(743)―一二(757))……………西 晉一郎

自覺に於ける直観と反省(未完)……………(第七冊 一(765)―三(788))……………西田幾多郎

……………(第八冊 七(935)―一〇(965))……………西田幾多郎

……………(第九冊 七(1080)―一〇(1107))……………西田幾多郎

クロツエの實踐哲學……………(第七冊 九(855)―一〇(865))……………尾生光三郎

記憶に關する……………(第七冊 一〇(866)―一二(877))……………深田 武

心理的假說……………(第七冊 一〇(866)―一二(877))……………深田 武

視覺に於ける右利左利……………(第八冊 一(889)―三(910))……………黒田 源次

基督教に於ける神の内在観……………(第八冊 三(911)―五(934))……………日野 眞澄

シャンカラの眞智に關する思想に就て……………(第八冊 三(911)―五(934))……………日野 眞澄

社會學的認識論……………(第九冊 一(1017)―三(1051))……………米田庄太郎

女子の使命に就いて……………(第九冊 三(1052)―五(1079))……………野田 義夫

藝術的活動の本質……………(第九冊 七(1108)―一〇(1124))……………中川 得立

第二卷 大正六年

セザンヌ……………(第一册 一) 三(32) …… 植田 壽藏
 美術の基礎に就ての考察(未完)……………(第一册 三) 四(48)
 第三册 一(357) 一三(379)
 第四册 六(469) 一四(489)
 第五册 六(576) 一六(604)
 第六册 九(721) 一七(739)
 第七册 一〇(846) 一八(867)
 第十册 一〇(1248) 一〇(1264)
 第十一册 二(1365) 一一(1383)
 …… 深田 康算

探求の態度と安心の態度と……………(第一册 四) 一三(72) …… 姉崎 正治

自覚に於ける直観と反省(未完)……………(第一册 四) 一三(72) …… 西田 幾多郎
 第二册 一〇(297) 一七(322)
 第四册 九(454) 一五(468)
 第五册 九(547) 一七(573)

琉球過去の文化と教育……………(第一册 一〇) 一八(118) …… 平内房次郎
 周易に見えたる倫理説(五則)……………(第二册 一) 一三(48) …… 高瀬武次郎

個人の差異に因由する學校組織の新運動と將來の學校組織……………(第二册 三) 一五(184) …… 田中 廣吉
 第三册 三(221) 一〇(256)

聯想反應作用の速度發達の経路及び其標式……………(第二册 五) 一〇〇(26) …… 橋崎淺太郎
 倫理上の見地より觀たる所謂社會防衛説……………(第三册 一) 三(299) …… 藤井健治郎

宗教的規範意識……………(第三册 三) 一六(320) …… 赤松 智城
 數理の認識……………(第四册 一) 三(85) 一六(445) …… 田邊 元
 剪取細工視的容間圖の測定……………(第四册 三) 一四(453) …… 黒山 源次

ニーエンの非有……………(第四册 一〇) 一四(501) …… 岡野留次郎
 (未完) に就いて……………(第五册 一) 三(546) …… 朝永三十郎

ヘルマン・ロツツエ……………(第五册 三) 一〇(613) …… 羽溪 了諦
 ダヤーナンドの性行……………(第五册 一〇) 一三(618) …… 野上 俊夫
 リボー先生の想ひ出……………(第六册 一) 三(643) …… 羽溪 了諦

ダーナンドの思想……………(第六册 一) 三(643) …… 羽溪 了諦

感情に關する諸問題……………(第六册 三) 一五(674) …… 千葉 胤成
 第七册 三(819) 一〇(845)

社會の全體と部分……………(第六册 五) 一七(697) …… 高田 保馬
 公理體系の二種……………(第六册 六) 一八(720) …… 國 正造

宗教の社會的表現に就いて……………(第七册 一) 三(776) …… 宇野 圓空
 神社と宗教……………(第七册 三) 一五(799) …… 松本文三郎

ニイツェの學制論……………(第七册 五) 一七(818) …… 小西 重直
 時 間 論……………(第八册 一) 三(923) …… 田邊 元
 感情の心理……………(第八册 五) 一八(956) …… 野上 俊夫

理論的に就て……………(第八册 六) 一八(984) …… 野崎 廣義
 一リボーの學說……………(第八册 一) 三(997) …… 野崎 廣義

懺悔としての哲學……………(第九册 一) 三(1042) …… 錦田 義富
 ロツツエ當當説……………(第九册 五) 一七(1076) …… 朝永三十郎
 の由來(未完)……………(第十册 二) 一〇(1247)

ロツツエの時代……………(第九册 三) 一五(1077) …… 成瀬 無極
 若きヴェルテルの惱み……………(第九册 五) 一七(1096) …… 成瀬 無極

平等個人主義(平民主義)と差別個人主義(貴族主義)……………(第九册 五) 一七(1124) …… 藤井健治郎
 自然科學的認識の性質……………(第九册 三) 一三(1112) …… 安部晴之助

ニーエンの倫理説……………(第十册 一) 三(1170) …… 菅 一郎
 ミカイロツスキの社會學說の創始……………(第十册 三) 一五(1201) …… 米田庄太郎

的價值(未完)……………(第十册 五) 一七(1304)
 大體中齊の學說……………(第十册 三) 一五(1300) …… 高瀬武次郎
 第十七册 三(1484) 一七(1512)

ルソオの責ける自然の觀念の歴史的發達……………(第十六册 三) 一六(1333) …… 植田 壽藏
 方の觀念の歴史的發達……………(第十七册 六) 一八(1341) …… 桑木 成雄

最近のライプニッツ研究に就て……………(第十七册 一) 三(1395) …… 錦田 義富
 十九世紀後半に於ける倫理學說の發達……………(第十七册 三) 一五(1457) …… 中島 力造

デューイの教育論(未完)……………(第十七册 六) 一八(1458) …… 篠原 助市

第三卷 大正七年

實識とは何を意味するか (第一册 一 (1) — 一六 (28)) …… 西田幾多郎
 客觀的心理學に就て… (第一册 元 (29) — 一五 (33)) …… 千葉 胤成
 社會的正義に就て… (第一册 五五 (54) — 六〇 (58)) …… 藤井健治郎
 デューイの教育論 (系前)… (第一册 八 (81) — 一〇二 (108)) …… 篠原 助市
 美しき靈の告白… (第一册 一〇二 (109) — 一四二 (119)) …… 徳根 無極
 ヤージエナヴァルキヤの… (第二册 一 (132) — 三三 (164)) …… 本川 義英
 見たる希臘輪廻思想
 獨逸唯心論に於ける… (第二册 三三 (165) — 六六 (208)) …… 田邊 元
 哲學的認識の問題… (第二册 六六 (312) — 一三二 (383)) …… 田邊 元
 ミカイロヴスキの社會 (第二册 六六 (312) — 一〇一 (324)) …… 米田庄太郎
 精神論的創始的價值 (系前) (第二册 一〇六 (308) — 一三三 (335)) …… 米田庄太郎
 精神論に就いて… (第二册 一〇六 (325) — 一三三 (347)) …… 岩井勝二郎
 輪廻轉生と解脱… (第二册 一 (287) — 一四 (304)) …… 齋藤 唯信
 極限概念 (Grenzbestimmtheit) (第二册 四四 (305) — 五三 (341)) …… 左右田喜一郎
 として文化價值
 神祕主義の爲に… (第三册 二二 (384) — 三六 (392)) …… 岡本 春彦
 木邦に於ける祖先崇拜… (第四册 一 (403) — 一六 (428)) …… 春山 作樹
 の形式及意義の變遷
 ストツムフの情覺説… (第五册 二 (429) — 一六 (458)) …… 野上 俊夫
 象徴と觀念… (第四册 三三 (439) — 三六 (471)) …… 岡本 春彦
 一獲得と哲學—
 ロツツニ妥當説… (第四册 四〇 (472) — 一〇五 (507)) …… 錦田 義富
 の由來 (系前) …… (第六册 四四 (710) — 五三 (733)) …… 錦田 義富
 喜劇と妄想 (未完) …… (第五册 一 (539) — 一五 (563)) …… 今村 新吉
 カライルの思想… (第五册 三三 (564) — 四四 (592)) …… 朝永三十郎
 の哲學的背景
 美術史の對象… (第五册 五五 (593) — 六〇 (618)) …… 植田 壽藏
 左右田博士の著「經濟
 折學の諸問題」を讀む
 感 覺… (第五册 一六 (654) — 一三二 (662)) …… 田邊 元
 識別作用の非相稱性
 に關する實驗的研究… (第六册 一 (667) — 一三 (683)) …… 西田幾多郎
 美學の基礎に就て… (第六册 六六 (734) — 八二 (749)) …… 深田 康算
 の考察 (系前) …… (第六册 八二 (750) — 九〇 (756)) …… 勝部 謙造
 フイドラー「近代自
 然派と藝術上の眞」
 心情の無限… (第七册 一 (766) — 一〇 (775)) …… 西 晋一郎

感 情… (第七册 一一 (776) — 一四 (807)) …… 西田幾多郎
 司馬遷の經學… (第七册 四四 (808) — 五三 (827)) …… 狩野 直喜
 心理學と客觀的
 方法 (未完) …… (第七册 五五 (828) — 六〇 (858)) …… 橋崎淺太郎
 高次の對象
 呪術に於ける
 合理性の意識
 シニタムラ… (第八册 一 (887) — 一四 (926)) …… 山内 得立
 の社會哲學… (第八册 四 (927) — 一五 (945)) …… 宇野 圓空
 一客觀主義の基礎に關して—
 ツェルケムの計及び
 其の社會學的研究
 デイルタイの記敍的
 分析的心理学… (第八册 一六 (1004) — 一七 (1009)) …… 鍋直 勇
 美の具象性… (第九册 一 (1013) — 一五 (1045)) …… 勝部 謙造
 實理性批判の
 根本問題に就て… (第九册 一五 (1046) — 一五 (1067)) …… 深田 康算
 個別的因果律の論理
 に就きて左右田博士… (第十册 一 (1217) — 二 (1237)) …… 深田 康算
 の教を乞ふ… (第九册 五三 (1068) — 七〇 (1102)) …… 世真 壽男
 ヘルマン・ユーン
 に就て… (第九册 一三 (1129) — 一三 (1138)) …… 田邊 元
 デカートの「規則論」に現
 はれたる批判論的思想… (第十册 一 (1147) — 一六 (1164)) …… 山内 得立
 交換遠近錯覺の
 變換時間に就て… (第十册 二 (1165) — 一五 (1197)) …… 黒田 源次
 米國に於ける黒
 人教育の發達… (第十册 三 (1198) — 一〇 (1216)) …… 小西 重直
 法理と倫理… (第十册 一三 (1238) — 一〇 (1248)) …… 安部晴之助
 與義書と起信論… (第十册 一三 (1253) — 一五 (1275)) …… 羽 濤 了 論
 一起信論は果して文那標述なるか—
 ライブニツツ哲學の意義 (第七册 二二 (1276) — 二六 (1320)) …… 田邊 元
 個別的因果律に關
 して更に田邊博士
 の教を乞ふ… (第七册 二六 (1321) — 一五 (1347)) …… 左右田喜一郎
 ロダンに於ける
 肉體的精神的
 生命と思辨… (第十册 一 (1371) — 一五 (1417)) …… 植田 壽藏
 一フイヒテ研究より— (第十册 一六 (1418) — 一六 (1452)) …… 久保 正夫

第四卷

大正八年

ソフィストとソクラテス (第一册 115(9) - 113(1531)) ... 波多野精一

カントの歴史哲學 (第一册 115(9) - 113(1531)) ... 米田庄太郎

黒白系統の兩眼 (第一册 115(9) - 113(1531)) ... 黒田 源次

「タブー」論 (第一册 115(9) - 113(1531)) ... 赤松 智城

創造的衝動と生産 (第一册 115(9) - 113(1531)) ... 關 頼三

經驗内容の種々なる連続 (第二册 116(7) - 114(1674)) ... 西田幾多郎

白、灰白及び黒の兩眼視現象論 (第二册 116(7) - 114(1674)) ... 黒田 源次

心理學と客觀的方法 (第二册 116(7) - 114(1674)) ... 檜崎淺太郎

エミール・ブートル (第二册 116(7) - 114(1674)) ... 藤井健治郎

中島教授墓去 (第二册 116(7) - 114(1674)) ... 藤井健治郎

機能的宗教心理學 (第三册 117(7) - 115(1763)) ... 石神 徳門

實社未分 (第三册 117(7) - 115(1763)) ... 久松 眞一

將來社會觀の種々 (第三册 117(7) - 115(1763)) ... 高田 保馬

戒律の社會學の見解 (第五册 118(8) - 116(1937)) ... 各本 富

心理的非心理的 (第五册 118(8) - 116(1937)) ... 務臺 理作

讀方の難易 (Lesbarkeit) (第六册 119(9) - 117(2044)) ... 野上 俊夫

ケルベル博士に關する實驗に就いて (第六册 119(9) - 117(2044)) ... 野上 俊夫

論文集 (第七册 120(10) - 118(2139)) ... 深田 康算

支那の精神に就いて (第七册 120(10) - 118(2139)) ... 狩野 直喜

シエリングに於ける絶對者の概念 (第七册 120(10) - 118(2139)) ... 久保 正夫

形式論理學の對象 (第七册 120(10) - 118(2139)) ... 安部晴之助

デカートの「規則論」に於ける「直覺」 (第八册 121(11) - 119(2283)) ... 朝永三十郎

感覺の強度に關する疑義 (第八册 121(11) - 119(2283)) ... 檜崎淺太郎

フアン・ホッホ (第八册 121(11) - 119(2283)) ... 植田 壽藏

フイヒテの道德學に就いての考察 (第八册 121(11) - 119(2283)) ... 世兵 壽男

意識の明暗に就いて (第九册 122(12) - 120(2478)) ... 西田幾多郎

ピアニストの仕事 (第九册 122(12) - 120(2478)) ... 兼常 清佐

董仲舒學說一斑 (第九册 122(12) - 120(2478)) ... 兼常 清佐

第五卷 大正九年

北米の國土と其藝術……(第一冊 一) 一四(341)……松本亦太郎
 道德と幸福との關係について……(第一冊 三) 一五(347)……藤井健治郎
 佛敎の預言說(家世)……(第一冊 六) 一五(355)……手島 文倉
 神と創造……(第一冊 六) 一五(355)……久松 眞一
 基本的と附加的と……(第一冊 一四) 一四〇(120)……野上 俊夫
 認識主觀の問題(尙前・未完)……(第二冊 一) 一三三(148)……田邊 元
 プラトーの美學(未完)……(第二冊 一四) 一四九(163)……深田 康算
 生活準備と連續的發展……(第六冊 一〇) 一六八(187)……深田 康算
 調音感覺の屬性……(第九冊 一) 一六(191)……手島 文倉
 在支外人の支那人敎化運動と其の動機……(第二冊 五) 一四九(153)……篠原 助市
 美の本質……(第二冊 八) 一三〇(136)……廣吉
 デカートの倫理想とカントの倫理想……(第三冊 一) 一三二(132)……西田幾多郎
 相對的變化與發達の客觀的・內觀的考察……(第三冊 四) 一三六(139)……朝永三十郎
 約翰傳福音書の宗教哲學的思想……(第七冊 六) 一七〇(179)……嵯崎淺太郎
 心理的前定に就いて……(第三冊 一〇) 一三三(138)……日野 眞澄
 喜劇と妄想(尙前・未完)……(第四冊 一) 一三六(141)……今村 新吉
 フイヒテの歴史哲學……(第四冊 三) 一四二(149)……久保 正夫
 優良兒童敎育の沿革……(第四冊 七) 一四六(153)……伊藤 徹典
 現實主觀……(第五冊 一) 一四三(148)……河瀬 憲次
 藝術家の悩み……(第五冊 四) 一四七(154)……成瀬 無極
 視野闘争過程の一般的性質……(第五冊 五) 一四八(153)……黒田 源次
 睡眠に就て……(第五冊 五) 一四八(153)……深田 武

ピアノのむね……(第六冊 一) 一三(137)……兼常 清佐
 かしさに就て……(第六冊 一〇) 一五七(176)……高田 保馬
 諸種の社會の相互關係……(第六冊 一〇) 一五七(176)……高田 保馬
 元曲に見えたる支那の婚俗……(第六冊 三) 一六(163)……浦川 源吾
 「我より見たる白覺敎と救濟敎」……(第六冊 二〇) 一六六(185)……佐々木月樵
 定言命令の一般性と個性との關係に就て……(第七冊 一) 一六七(186)……錦田 義富
 ユウゼニス・ドラクロア……(第七冊 三) 一七三(192)……植田 壽藏
 古代埃及の藝術に就いて……(第八冊 一) 一七五(194)……植田 壽藏
 個性の理解……(第八冊 二) 一七六(195)……松本文三郎
 原始僧團に於ける比丘の極罪罪……(第七冊 四) 一七九(198)……手島 文倉
 自然の理性化……(第九冊 一) 一八〇(200)……西 晋一郎
 批判哲學と歴史哲學……(第九冊 三) 一八二(202)……西 晋一郎
 一カント哲學への瞥見一
 精神測定の原理としての誤差の法則……(第九冊 一〇) 一八七(207)……岩井勝二郎
 社會科學の性質に關するコソンの見解に就て……(第十冊 一) 一八八(208)……藤井健治郎
 判斷對象の構成に就て……(第十冊 三) 一九〇(210)……三宅 剛一
 倫理想の對象としての道徳的價値判斷の性質に就て……(第十冊 四) 一九一(211)……世良 壽男
 近代労働階級の哲學思想……(第十一冊 一) 一九二(212)……米田庄太郎
 知覺と想像……(第十一冊 三) 一九四(214)……大脇 義一
 アッハの意志說……(第十一冊 五) 一九六(216)……大脇 義一
 カントとシュライエ……(第十二冊 一) 一九七(217)……勝部 謙造
 ルーッヘル(未完)……(第十二冊 三) 一九九(219)……勝部 謙造
 基督敎修道院の宗教思想……(第十三冊 一) 二〇〇(220)……日野 眞澄

第六卷 大正十年

意識の程度に就て……………(第一册 一)―蓋(35)……………千葉 胤成
 教育の基礎概念……………(第一册 三)―器(47)……………吉田 熊次
 としての自我……………
 古神道に於ける道……………(第一册 四)―六(58)……………村岡 典嗣
 徳意識とその發達……………
 前行の視野闘争……………(第一册 六)―九(71)……………黒田 源次
 争に及ぼす影響……………
 喜劇と妄想(兼前・未完)……………(第二册 一)―二(115)……………黒田 源次
 認識主觀の問題(兼前)……………(第二册 一)―二(131)……………今村 哲吉
 ……(第六册 三)―五(611)……………田邊 元
 ……(第七册 四)―六(1239)……………
 意志の本質……………(第二册 五)―六(180)……………大嶋 義一
 カントとシユライエール……………(第二册 七)―八(199)……………勝部 謙造
 マットル(兼前・未完)……………
 バウル・ナトルプ「*「K*
スタロツチの理想主義」……………(第三册 八)―九(212)……………長田 新
 (一九一九年)を讀む……………(第三册 六)―七(306)……………
 ナン氏の教育說……………(第二册 九)―一〇(229)……………伊藤 猷典
 平和論の半面……………(第三册 一)―二(253)……………朝水三十郎
 兒童期に於ける精神發……………(第三册 三)―四(285)……………橋崎淺太郎
 達の停滞現象に就いて……………
 合理性對非合理性の……………(第三册 八)―九(307)……………三(339)
 問題を通じて探る……………(第四册 五)―六(423)……………左右田喜一郎
 「極限概念の概観」……………(第五册 三)―四(513)……………
 ……(第六册 七)―八(646)……………一三(691)……………
 感情の内容と……………(第四册 一)―二(343)……………一五(399)……………西田幾多郎
 意志の内容……………
 歴史的因果律の問題……………(第四册 八)―九(429)……………一四(469)……………三木 浩
 プラトノの美……………(第五册 一)―二(473)……………三(484)……………深川 康算
 學(兼前・未完)……………(第七册 四)―五(739)……………六(757)……………
 社會的教育學の概念……………(第五册 四)―五(548)……………篠原 助市
 ……(第五册 七)―八(549)……………一八(557)……………久松 眞一
 救済の論理……………(第十册 五)―六(1117)……………一七(1142)……………

精神物理學上の二……………(第五册 六)―七(558)……………一六(563)……………岩井勝二郎
 三の問題に就いて……………
 道徳の特質に就て……………(第六册 一)―二(571)……………一三(581)……………西 晋一郎
 繪畫の對象……………(第六册 四)―五(645)……………植田 壽藏
 漢書藝文志の歴史觀……………(第七册 一)―二(695)……………三(700)……………丹羽 正義
 哲學と生活……………(第七册 三)―四(707)……………五(727)……………勝部 謙造
 ハウプトマン……………(第七册 四)―五(728)……………一〇(738)……………成瀬 無極
 の神祕主義……………
 關係對象に就いて……………(第七册 六)―七(758)……………一七(781)……………勝部 謙造
 思惟の心理學的……………(第八册 一)―二(789)……………一〇(808)……………大嶋 義一
 研究に就いて……………
 伊藤仁濟の教育效果論……………(第八册 三)―四(830)……………高橋 俊乘
 シーク教の過……………(第八册 五)―六(831)……………一〇(898)……………手島 文倉
 去及び現在……………
 理念としての……………(第八册 一)―二(899)……………一三(919)……………濱田 與助
 神の實在性……………
 眞善美の合一點……………(第九册 一)―二(923)……………五(972)……………西田幾多郎
 教育學の論理……………(第九册 五)―六(973)……………一〇(999)……………辻 幸三郎
 佛敎史上に於ける日……………(第九册 六)―七(1000)……………一〇(1026)……………宮城 信雅
 本天臺戒律の意義……………
 合衆國に於ける……………(第九册 一)―二(1027)……………一三(1059)……………伊藤 猷典
 合衆國に於ける……………
 カントに於ける認識……………(第十册 一)―二(1067)……………一七(1084)……………岡野留次郎
 客觀性の問題(未完)……………(第十册 一)―二(1069)……………一七(1288)……………
 勞働の倫理……………(第十册 一)―二(1085)……………一五(1116)……………藤井從治郎
 シェリングに於ける自……………(第十册 七)―八(1143)……………一六(1162)……………世良 壽男
 由の哲學の發展(未完)……………
 文化價值體系……………(第七册 一)―二(1167)……………一五(1181)……………米田庄太郎
 問題(未完)……………
 博愛主義と利己主義……………(第七册 六)―七(1182)……………一四(1213)……………高瀬武次郎
 ミレニ……………(第七册 七)―八(1240)……………一〇(1266)……………植川 壽藏
 宗教と形而上學……………(第七册 三)―四(1289)……………一八(1353)……………久保 正夫
 フーヒエテの宗教哲學の研究……………
 二點間以下に於ける……………(第十册 八)―九(1354)……………一六(1360)……………岩井勝二郎
 觸知覺型に就いて……………

第七卷 大正十一年

社會の地域的解放……………	(第一册 一)	一三(32)	高田 保馬
カントの平和觀に就て……………	(第一册 三)	三三(66)	朝永三十郎
個性の問題……………	(第一册 三)	三三(66)	三木 浩
文化價值體系問題……………	(第一册 一〇)	一〇二(107)	米田庄太郎
カントに於ける認識……………	(第二册 一)	一三三(133)	岡野留次郎
客觀性の問題(兼司)……………	(第二册 一)	一三三(133)	勝部 謙造
教育活動の本質……………	(第二册 三)	三三(66)	勝部 謙造
シュエリングに於ける自由の哲學的發展(兼司)……………	(第二册 五)	五二(172)	世良 壽男
朱子の禮說……………	(第三册 一)	一三(32)	浦川 源吉
ゼリオニイの社會生理學……………	(第三册 元)	元(263)	劍直 勇
精神力量……………	(第三册 五)	五二(172)	槍崎淺太郎
カント哲學に於ける「規範的」の意義……………	(第三册 五)	五二(172)	務家 理作
社會と個人……………	(第四册 一)	一三(32)	西田幾多郎
教育強制的權利根據に關するクーン氏の說……………	(第四册 六)	六〇(454)	伊藤 猷典
シユタムラーの法理的範疇論について……………	(第五册 二)	二六(90)	恒藤 恭
プラトーの美學(兼司)……………	(第五册 四)	四二(167)	深川 康算
梵綱經二經の成立年代と其教理とに就て……………	(第五册 六)	六二(22)	宮城 信雅
エルドマン「再生の心理學」に就いて……………	(第五册 六)	六二(22)	大脇 義一
順世外道論……………	(第六册 二)	二五(89)	手島 文介
抽象的心理學と具體的心理學と……………	(第六册 三)	三三(66)	野上 俊夫
大體令に定められたる大學寮の教育史上に於ける意味……………	(第七册 六)	六〇(96)	高橋 俊乘
喜劇と妄想(兼司)……………	(第八册 一)	一七(77)	今村 新吉
社及社會考……………	(第八册 二)	二二(80)	浦川 源吉
實在と教育……………	(第八册 四)	四二(167)	大西 友太
メノン研究……………	(第八册 五)	五二(172)	菊池豊一郎
黑……………	(第八册 三)	三三(66)	黒田 源次
實驗的内省に就いて……………	(第九册 一)	一三(32)	岩井勝二郎
行爲的主觀……………	(第九册 二)	二二(80)	西田幾多郎
美と善……………	(第九册 六)	六二(22)	西田幾多郎
繪畫の優劣は如何に可能なるか(兼司)……………	(第十册 一)	一三(32)	植田 壽藏
アッハの近業、概念形成の實驗的研究……………	(第十册 二)	二二(80)	大脇 義一
財産の倫理的性質……………	(第十册 三)	三三(66)	藤井健治郎
宗教的規範意識に關する考察……………	(第十册 四)	四二(167)	菅 圓吉
社會の概念……………	(第十册 五)	五二(172)	銅直 男
歴史に於ける普遍關係……………	(第十册 六)	六二(22)	丹羽 正義
什譯法華提婆品に就いて……………	(第十册 七)	七二(270)	松本文三郎
ボルツァーノの自傳……………	(第十册 八)	八二(308)	西田幾多郎
新獨逸の道德教育……………	(第十册 九)	九二(336)	小西 重直
情乎バルト教授……………	(第十册 一〇)	一〇二(384)	伊藤 猷典
パウリ氏の心……………	(第十册 一一)	一一二(402)	岩井勝二郎
實有様相と因果律の問題……………	(第十册 一二)	一二二(442)	務家 理作

第八卷 大正十二年

規範……………(第一册一(1)―19(17))…西 晋一郎
 男女共學について……………(第一册一(18)―10(30))…野上 俊夫
 歴史の意義に關して……………(第一册三(31)―15(35))…波多野精一
 ヘブライ思想……………(第一册五(56)―14(64))…久松 眞一
 常識實在論の基礎づけ……………(第一册六(65)―17(77))…伊藤 猷典
 教育學方法論……………(第二册六(145)―14(156))…植田 壽藏
 繪畫の優劣は如何にし……………(第二册一(83)―11(103))…植田 壽藏
 て可能なるか(蒙野)……………(第二册一(397)―11(417))…小島 祐馬
 第七册一(579)―11(600)
 公羊家の文化階段說……………(第二册三(104)―12(119))…西川 幾多郎
 法と道德……………(第二册三(120)―12(144))…世良 壽男
 メデイクスの道德……………(第二册六(166)―12(180))…河瀬 壹次
 的評價の二原理……………(第三册一(183)―15(207))…朝永三十郎
 個體概念を通じて觀たる……………(第三册二(208)―18(235))…楡崎淺太郎
 形而上學の要求……………(第三册三(236)―11(238))…岡野留次郎
 デカート哲學に關する二三の考察……………(第三册三(234)―11(238))…加藤 仁平
 兒童精神力の性的差異……………(第四册一(297)―12(315))…久松 眞一
 認識論より見たる相對性理論(カッター)……………(第四册一(308)―12(321))…務 理作
 山鹿素行に於ける大學思想の發達……………(第四册二(316)―10(326))…深田 康算
 古學思想の發達……………(第四册二(316)―10(326))…三宅 剛一
 神學の方法論に關する一考察……………(第四册三(327)―15(352))…米川 庄太郎
 主觀的普遍に就て……………(第四册三(327)―15(352))…ヒルベルト
 物理學の基礎……………(第五册三(418)―15(432))…三土興三譯
 道德的美……………(第五册三(433)―15(452))…深田 康算
 第七册六(639)―11(691)
 綜合的統一について……………(第五册五(453)―15(470))…三宅 剛一
 コントの社會連帶思想(未完)……………(第五册五(453)―15(470))…米川 庄太郎

パスカルの「賭」……………(第五册五(471)―16(488))…小林 太市郎
 「宋子の學」……………(第六册一(495)―13(507))…浦川 源吾
 綜藝種智院について……………(第六册二(523)―14(540))…高橋 俊乘
 道徳獨特の實現方法……………(第六册二(541)―14(574))…西 晋一郎
 カントの Noumena と 實驗的自由とに就て……………(第六册三(601)―16(638))…木村 素衛
 先驗的自由とに就て……………(第六册三(601)―16(638))…木村 素衛
 佛陀と摩訶毘羅……………(第八册一(685)―13(718))…羽 瀨 了諦
 第九册一(797)―12(825)
 シルラーが美學上の功績(未完)……………(第八册二(719)―15(750))…深田 康算
 第十册二(1108)―12(1132)
 社會的正義について……………(第八册二(751)―15(789))…藤井健治郎
 正義の本質……………(第八册二(751)―15(789))…藤井健治郎
 ケーベル博士の逝去……………(第八册六(730)―12(733))…深田 康算
 第九册二(826)―10(846)
 第十册三(941)―11(971)
 無我論(未完)……………(第十册三(941)―11(971))…手島 文倉
 第十一册三(1178)―12(1222)
 社會意識……………(第九册五(847)―12(872))…銅直 勇
 直接に與へられるもの……………(第九册五(873)―11(907))…西川 幾多郎
 教育概念の基礎づけ……………(第十册一(911)―10(940))…伊藤 猷典
 歴史的と藝術的……………(第十册二(972)―12(1009))…西 晋一郎
 内部知覺と其對象に就て……………(第十册二(972)―12(1009))…西 晋一郎
 自律の法理的意義……………(第十册二(1010)―11(1052))…務 理作
 第十一册一(1035)―10(1074)
 ダンテの詩……………(第十册三(1123)―11(1155))…黒田正利
 文化教育學の出現……………(第十册三(1123)―11(1155))…黒田正利
 第七册一(1157)―11(1177)
 ヘッバリーン教授の計と氏の教育說の基礎たる神の論證に就て……………(第十册三(1232)―12(1232))…伊藤 猷典
 リンドンゾオルスキイ「理論心理學提要」……………(第十册三(1233)―12(1248))…大 鷗 義一
 計算論の諸原理(一)……………(第十册三(1249)―12(1283))…戸坂 潤譯

文化教育學の出現(系前)……………(第一册 一)―一九(一九)……………長田 新
 カントとシュライエ……………(第一册 一〇)―三〇(三三)……………勝部 謙造
 ルマツヘル(系前)……………(第一册 三三)―六二(六二)……………世良 壽男
 自由の可能に就て……………(第十册 五〇)―六二(六二)……………世良 壽男
 シルラーが美原……………(第一册 六二)―九二(九九)……………深川 康算
 上の功績(系前)……………(第二册 一)―三二(三三)……………手島 文倉
 無我論(系前)……………(第二册 一)―三二(三三)……………手島 文倉
 カント體系の所謂缺陷問題……………(第二册 三)―二四(二九)……………平田 元吉
 Hegelの Phänomenologie des Geistes……………(第二册 六)―一七(一九)……………三土 興三
 回教思想の特色……………(第三册 一)―二八(二八)……………赤松 智城
 第四册 一(三九)―一四(三九)……………赤松 智城
 第三册 一(三九)―一四(三九)……………赤松 智城
 個體と自由……………(第三册 一)―二八(二八)……………河瀬 憲次
 第三册 一(三九)―一四(三九)……………赤松 智城
 内部知覚について……………(第十册 九)―一〇(一〇)……………西川 幾多郎
 第十册 九(一〇)―一〇(一〇)……………西川 幾多郎
 コントの社會連帶思想(系前)……………(第三册 一)―二八(二八)……………米田 庄太郎
 第三册 一(三九)―一四(三九)……………赤松 智城
 第七册 一(七二)―一七(七七)……………米田 庄太郎
 人格主義としてのカント倫理……………(第四册 一)―二八(二八)……………藤井 健治郎
 第四册 一(三九)―一四(三九)……………赤松 智城
 第六册 一(六六)―一四(六八)……………藤井 健治郎
 プレンタノの精神現象の分類……………(第四册 四)―一六(二四)……………島崎 得道
 第四册 四(三九)―一四(三九)……………赤松 智城
 靈魂觀念の分化について……………(第五册 一)―二二(二五)……………宇野 圓空
 第五册 一(四七)―二二(二五)……………宇野 圓空
 ダンテとトマス……………(第五册 一〇)―一五(一五)……………黒田 正利
 第五册 一〇(四七)―一五(一五)……………黒田 正利
 アクキナス……………(第五册 一六)―一七(一七)……………高橋 俊乘
 第五册 一六(四七)―一七(一七)……………高橋 俊乘
 令制の國學について……………(第五册 一六)―一七(一七)……………高橋 俊乘
 第五册 一六(四七)―一七(一七)……………高橋 俊乘
 カント生誕二百年記念會に際して……………(第五册 一六)―一七(一七)……………朝永 三十郎
 第五册 一六(四七)―一七(一七)……………朝永 三十郎

實在に就て……………(第五册 三)―五三(五九)……………久松 眞一
 ベスタロツチ……………(第六册 一)―五三(五九)……………小西 重直
 一の宗教々育……………(第六册 一)―五三(五九)……………小西 重直
 宗教的對象としての歴史的人格……………(第六册 二)―五三(五九)……………菅 圓吉
 第六册 二(五三)―五三(五九)……………菅 圓吉
 カントの目的論……………(第六册 三)―六二(六二)……………菅 圓吉
 第六册 三(五三)―六二(六二)……………菅 圓吉
 神覺に於ける水線及び錘練の成立……………(第七册 一)―四(七二)……………植田 壽藏
 第七册 一(五三)―四(七二)……………植田 壽藏
 歴史と教育……………(第七册 四)―五(七三)……………大西 友太
 第七册 四(五三)―五(七三)……………大西 友太
 教育目的としの價値體系……………(第八册 一)―二(八〇)……………伊藤 猷典
 第八册 一(五三)―二(八〇)……………伊藤 猷典
 第十册 一(五三)―二(八〇)……………伊藤 猷典
 武士道の起源及び特質……………(第九册 一)―二(八〇)……………高橋 俊乘
 第九册 一(五三)―二(八〇)……………高橋 俊乘
 第十册 一(五三)―二(八〇)……………高橋 俊乘
 具體的の人性の研究……………(第八册 五)―六(八六)……………野上 俊夫
 第八册 五(五三)―六(八六)……………野上 俊夫
 ホール先生を弔ふ……………(第九册 一)―二(八〇)……………加藤 仁平
 第九册 一(五三)―二(八〇)……………加藤 仁平
 山鹿素行に於ける上道論的思想の發達……………(第十册 一)―二(八〇)……………加藤 仁平
 第十册 一(五三)―二(八〇)……………加藤 仁平
 故マックス・フリッシャイゼン・ケラーの教育學界に於ける功績……………(第九册 六)―七(一〇二)……………伊藤 猷典
 第九册 六(五三)―七(一〇二)……………伊藤 猷典
 フイロストラト……………(第十册 一)―二(八〇)……………深田 康算
 第十册 一(五三)―二(八〇)……………深田 康算
 Das Reale……………(第十册 一)―二(八〇)……………深田 康算
 第十册 一(五三)―二(八〇)……………深田 康算
 Das Ideale……………(第十册 一)―二(八〇)……………深田 康算
 第十册 一(五三)―二(八〇)……………深田 康算
 カント哲學と現代の科學……………(第十册 一)―二(八〇)……………戸坂 潤
 第十册 一(五三)―二(八〇)……………戸坂 潤

勞作教育の問題……………(第一冊 一(1)―三(21))…小西 重直
 物理的空間の成立まで……………(第一冊 三(22)―六(76))…戸坂 潤
「カントの空間論」
 時の原始的様態に就て……………(第一冊 七(77)―一〇(106))…荻原 理作
第三冊 一〇(240)―一三(264)
 詩的想像力と狂氣……………(第一冊 一(107)―一三(241))…高坂正顯譯
第二冊 一(127)―一三(142)
 教育方法の原理……………(第二冊 一(211)―三(230))…伊藤 猷典
第三冊 一(211)―三(230)
 カントに於ける
 transzendentaler Gegenstand 之 "affektiven werden" に就て……………(第二冊 一(142)―五(178))…木村 素衛
 物理的空間の實現……………(第二冊 五(179)―六(209))…戸坂 潤
 形態性論(フアン・エー・ン・エールス)……………(第三冊 五(265)―九(281))…岩井勝二郎
 現代に於ける教育學の基礎付け……………(第四冊 一(285)―一三(302))…長田 新
第五冊 一(404)―三(423)
第七冊 一(561)―三(587)
 フキヒテの知識學……………(第四冊 一(303)―一三(327))…河瀬 憲次
第五冊 五(424)―一三(447)
 に關する一考察……………(第四冊 五(413)―六(430))…田邊 元
第七冊 五(613)―六(630)
 ミケランゼロ……………(第五冊 一(375)―三(403))…植田 壽藏
 理念に就いての歴史……………(第五冊 七(448)―一三(460))…シンチンゲル
第六冊 七(527)―一三(530)
第七冊 一〇(661)―一三(668)
 史的と非歴史的……………(第五冊 八(461)―一三(481))…ジン・メル
第六冊 一(483)―三(504)
第七冊 三(585)―五(612)
第八冊 三(706)―五(732)
第十冊 二(942)―三(978)
 菅家遺稿とその和魂漢才說……………(第六冊 二(505)―三(530))…淡 徳三郎
第八冊 七(740)―九(762)
 社會學の一元論的方針……………(第六冊 二(505)―三(530))…淡 徳三郎
第八冊 七(740)―九(762)
一「テネルケムの社會學方針に對する一考察」

教育哲學の要綱……………(第六冊 四(331)―五(338))…伊藤 猷典
 過渡經驗に就て……………(第六冊 五(339)―六(347))…大脇 義一
 モーアの宗教發生論……………(第六冊 六(348)―七(356))…菅 圓吉
 惡に就て……………(第七冊 二(651)―一〇(660))…西 晉一郎
 呪術の發生に關する問題……………(第八冊 一(671)―一三(686))…宇野 圓空
第九冊 六(824)―一五(845)
 古代支那人崇拜の小神……………(第八冊 一(687)―五(705))…浦川 源吾
 特別に「五祀」に就いて……………(第八冊 五(763)―一三(783))…羽溪 了諦
 印度のピルロン……………(第八冊 五(783)―一三(823))…五十嵐 信
 ファーアカントの社會學概念に於ける二三の問題……………(第九冊 一(787)―三(823))…五十嵐 信
第十冊 一(917)―三(941)
第十冊 一(715)―三(719)
 我が國古代の道徳と儒教(未完)……………(第九冊 一〇(846)―一八(870))…高橋 俊乘
第十冊 一(979)―三(1006)
第十冊 一(1084)―三(1087)
 無明原理論……………(第九冊 八(871)―一三(909))…手島 文倉
第十冊 九(1007)―一〇(1046)
 働くもの……………(第十冊 九(1049)―一五(1063))…小西 重直
 精神科學の基礎的研究……………(第十冊 一(1049)―一五(1063))…小西 重直
 デイルタイの心理學的觀念の基本的なるものに就いて(未完)……………(第十冊 四(1088)―六(1110))…檜崎淺太郎
 論理的普遍妥當性と美的普遍妥當性……………(第十冊 五(1117)―八(1129))…赤松 元通
 モーグの教育作用說……………(第十冊 八(1130)―九(1145))…伊藤 猷典
 社會と模倣……………(第十冊 九(1146)―一〇(1155))…潮直 勇
 カントに於ける「自然」概念の一的意味(未完)……………(第十冊 三(1195)―五(1227))…高坂 正顯
 朱子の禮論に關する一考察(未完)……………(第十冊 七(1228)―八(1244))…後藤 俊瑞
 カント哲學と數……………(第十冊 八(1245)―一〇(1265))…朝永三十郎
 學的自然科學……………(第十冊 八(1245)―一〇(1265))…朝永三十郎

知覚判断に就いて……………(第一册一(1)一巻(37))…赤松 元通
 デイルタイの心理學的
 理念の基本的なるもの……………(第七册七(67)一巻(39))…猪崎淺太郎
 に就いて(家前・未定)……………(第七册四(106)一巻(109))
 我が國古代の道
 徳と儒教(家前)……………(第一册六(60)一巻(77))…高橋 俊乘
 デイルタイの
 哲學的方法……………(第一册六(78)一巻(97))…勝部 謙造
 第三册三(34)一巻(28)
 第四册一(1)一巻(310)
 機械作用と身體
 の個性(家前)……………(第二册一(101)一巻(159))…大西 友太
 第九册八(87)一巻(910)
 神曲の倫理思想……………(第二册六(160)一巻(183))…黒田 正利
 朱子の禮論に關する
 一考察(家前)……………(第三册八(184)一巻(199))…後藤 俊瑞
 プロテイノスコとカント……………(第二册一〇(200)一巻(219))…波多野精一
 一宗教哲學の二つの任務一
 作用心理學管見……………(第三册一(223)一巻(246))…大脇 義一
 眞俗二諦の史的考察……………(第三册四(269)一巻(297))…齋藤 唯信
 ライブニッツと美學……………(第三册七(298)一巻(317))…深川 康算
 第五册六(430)一巻(461)
 第七册一〇(122)一巻(125)
 プロテイノスコの絶對に就て……………(第四册一(341)一巻(354))…久松 眞一
 音樂理論の研究……………(第四册三(355)一巻(374))…須永 克己
 詩的表現の對象として……………(第四册五(375)一巻(385))…ブレント
 第五册七(462)一巻(482) ……三宅 實譯
 物的及心的現象と感覺……………(第五册一(389)一巻(430))…高瀬 安貞
 カントに於ける「自然」概
 念の一つの意味(家前)……………(第五册三(421)一巻(449))…高坂 正顯
 第六册一(483)一巻(531))…西田幾多郎
 デイルタイ著「哲
 學の本質」の邦譯……………(第六册一〇(582)一巻(605))…戸田 三郎

間の構造……………(第七册六(670)一巻(6-8))…三木 清
 一能率論的研究一
 現象學的傾向……………(第七册六(109)一巻(1108))…坂田 徳男
 デイルタイ著「哲學の
 本質」の邦譯に就いて……………(第七册七(69)一巻(696))…勝部 謙造
 教育學の性質に
 つきての一考察……………(第八册一(701)一巻(725))…伊藤 猷典
 宗教的體験の
 受動的性質……………(第八册三(726)一巻(742))…佐藤 繁彦
 一特にルターの體験に就いて一
 フント論理學に於ける
 Person 並に Person-
 heiket の概念(シギキ)
 プラトンの「マイド」……………(第八册四(743)一巻(779))…柳田謙十郎
 ロス……………(第八册六(780)一巻(788))…ジョン・バリ
 田中美知太郎譯
 權威に就いて……………(第九册一(793)一巻(816))…藤井健治郎
 形式化と普遍化……………(第九册三(817)一巻(875))…本田 謙三
 西田哲學の方
 法に就いて……………(第十册一(913)一巻(942))…左右田喜一郎
 一西田博士の故を乞ふ一
 プラトンの「パルメ
 ニデス」の一三一E……………(第十册三(943)一巻(988))…田中美知太郎
 一三二Bに就いて一
 一所謂「第三の人間」プラトンのイデア論一
 範疇としての……………(第十册七(989)一巻(1023))…戸坂 潤
 空間に就いて……………(第十册九(1175)一巻(1220))
 一之は「J」の習作である一
 直観知と物自體(家前)……………(第十一册一(1025)一巻(1051))…田邊 元
 第十二册二(1052)一巻(1068))…鼓 常良
 辭 物……………(第十二册一(1113)一巻(1174))…菊池謙一郎
 プラトン哲學私斷……………(第十二册二(1130)一巻(1148))…高橋 俊乘
 第一・三郎(未定)
 石川謙氏の寺小屋起
 源論についての質疑……………(第十二册二(1130)一巻(1148))…高橋 俊乘

ディルタイの心理學的 理念的的基本的なる ものについて(前篇)	(第一册 一(1)―二(15))	・橋崎港太郎
プラトン哲學私斷	(第一册 一(19)―九(94))	・菊池慧一郎
第一・三部論(前篇)	(第三册 三(248)―七(300))	・高坂 正顯
カントの宗教論に 於ける歴史的問題	(第一册 空(63)―二(126))	・高坂 正顯
一附、最高善の前提		
ペスタロッチ	(第二册 一(129)―三(140))	・小西 重直
と其百年記念祭		
ペスタロッチ	(第二册 三(141)―四(176))	・長田 新
一の直觀論		
ペスタロッチ	(第二册 四(177)―五(183))	・野上 俊夫
遺跡巡禮記		
ペスタロッチの手紙	(第二册 五(184)―七(200))	・有馬良治譯
「寺小屋」研究の方 法論」に關して高橋 文學士の批評に答ふ	(第二册 七(201)―九(224))	・石川 謙
辨證法の論理(未完)	(第五册 一(227)―三(247))	・山邊 元
機械作用と身體の 個性(完結・未完)	(第五册 一(423)―三(438))	・大西 友太
第三册 三(301)―五(341)		
第九册 一(807)―三(846)		
第七册 一(1129)―三(1191)		
左右田博士に答ふ	(第四册 一(345)―三(384))	・西田幾多郎
十九世紀前半の佛 蘭西畫壇に於ける 寫實主義の變遷	(第四册 四(385)―五(395))	・小林太市郎
第五册 一(423)―三(477)		
第六册 一(503)―三(523)		
第八册 一(701)―三(728)		
第九册 一(846)―三(858)		
第十册 一(897)―三(919)		
無限に就いて(タディ ツト・ホルバート)	(第四册 五(396)―七(419))	・下村寅太郎
戒律より見たる 佛教の道德思想	(第五册 一(460)―三(476))	・松本文三郎
社會心理的相 互作用の過程	(第六册 一(503)―三(520))	・白井 二尙
(第六册 一(521)―三(581))		

ベルグソンに於ける時間と永遠	(第七册 三(639)―七(673))	・唐木 順三
カント第三批判序 文前稿について	(第七册 七(674)―九(679))	・中井 正一
カント哲學に於ける神 の存在の證明根據とし てのテレオロギ	(第八册 二(729)―五(755))	・淡野安太郎
先驗倫理學の概 念と其の一問題	(第八册 五(756)―九(798))	・柳田謙十郎
「ち」の教育	(第九册 五(839)―七(880))	・高橋 俊乘
言語(未完)	(第九册 七(881)―九(889))	・中井 正一
斷簡三片	(第九册 八(890)―九(894))	・伊藤 猷典
行爲に於ける 純粹なるもの	(第十册 四(950)―六(977))	・島 芳夫
精神分離症の心理學 的說明原理としての 社會的本能缺陷	(第十册 一(1009)―三(1034))	・今村 新吉
社會的事象	(第十册 七(1035)―九(1088))	・尾高 朝雄
形式と素材	(第十册 一(1059)―三(1128))	・ヘンリ・ジヤ ックソン
ピレボス篇とアリ ストテレスの形而 上學第一章第六節	(第十册 六(1069)―八(1086))	・高田三郎譯
	(第十册 九(1130)―一〇(1205))	

第十三卷 昭和三年

龍樹哲學に於ける物自性の問題……………(第一册 1—10(20))… 稻津 紀三
— 中論有差品の研究及び解釋 —
 史學に於ける過去の認識……………(第一册 21— 區 (43))… 田邊 元
 惡の問題に就いて……………(第二册 區 (44)— 允 (89))… 西谷 啓治
 内觀論(モッカ)……………(第一册 90—110(110))… 岩井勝二郎
 先驗生成的方法について……………(第二册 1(113)— 區(166))… 赤松 元通
 ベスタロッチーの勞作教育論……………(第二册 區(189)—113(226))… 長田 新
 海外通信……………(第二册 113(227)—110(334))… 伊藤 猷典
 機械作用と身體の個性(系前)……………(第三册 元(287)— 允(324))… 大西 友太
 方法概念の分析……………(第三册 元(325)—110(368))… 戸坂 潤
 所謂認識對象の論理的構造……………(第九册 1(327)— 區(373))… 西川幾多郎
 言語(系前)……………(第四册 1(373)— 允(432))… 中井 正一
 辨證法の論理(系前・未完)……………(第五册 1(463)— 允(513))… 田邊 元
 プラトンに於ける自體と存在……………(第七册 1(149)— 區(185))… 高田 三郎
 日本教育史上の手習……………(第五册 區(514)— 允(538))… 高田 三郎
 ザントの個人心理學に於ける基本概念……………(第五册 元(539)— 允(560))… 俊乘
 アリストテレス倫理學の限界……………(第七册 元(740)— 允(768))… 高橋 俊乘
 反省的判斷力……………(第六册 元(618)— 允(672))… 高山 岩男

カール・ビューラー「心理學の危機」……………(第六册 元(673)—110(686))… 大脇 義一
 自己自身を見るもの於てある場所……………(第七册 1(889)— 區(718))… 西田幾多郎
 と意識の場所……………(第七册 1(889)— 區(718))… 西田幾多郎
 ウイリアム・デエイムスの認識論と形而上學……………(第七册 元(719)— 允(749))… 高坂 正顯
 認識の現象學的解明に就いて……………(第八册 區(838)— 允(894))… 高坂 正顯
 マックス・シュラーの計……………(第七册 元(807)— 區(812))… 長田 新
 空觀の哲學……………(第八册 1(815)— 區(857))… 稻津 紀三
 存在より行へ……………(第八册 1(815)— 區(857))… 稻津 紀三
— 龍樹哲學の根本問題 —
 コーヘンに於ける根源と非有……………(第八册 元(895)— 107(923))… 山良 哲次
 律排論に於ける拒中……………(第九册 元(974)— 七九(1005))… 山良 哲次
 のOtto Holderの……………(第九册 元(1006)— 20(1016))… 下村寅太郎
 一〇の批評……………(第九册 元(1017)— 107(1032))… 下村寅太郎
 海外通信……………(第九册 元(1017)— 107(1032))… 伊藤 猷典
 寂寥の世界……………(第十册 1(1033)— 七五(1116))… 西田幾多郎
 龍樹に於ける物と相の問題……………(第七册 元(1186)— 允(1213))… 稻津 紀三
 一〇の批評……………(第七册 元(1243)— 七九(1279))… 稻津 紀三
— 中論有差品の研究及び解釋 —
 アリストテレスの運動について……………(第七册 元(1214)— 九7(1238))… 小島 威彦
 ……(第七册 元(1280)— 五五(1301))… 小島 威彦

- 直覺的判識……………(第一册 一(1) — 八(82))…西田幾多郎
 「アウトノミー」と……………(第一册 八(83) — 一三(133))…赤松 元通
 「ヘアウトノミー」……………(第一册 一三(134) — 一五(139))…山良 哲次
 ハンブルク大學より……………(第一册 一五(141) — 一五(161))…深田 康算
 アミエルの日記の一節……………(第二册 一(157) — 五(161))…伊勢專一郎
 張彦遠の論証(未完)……………(第二册 六(169) — 一三(189))…植田 壽藏
 美意識の深底より……………(第二册 一三(190) — 一六(216))…鳥 芳夫
 見たる光及び暗……………(第二册 一六(217) — 一〇〇(236))…須永 克己
 意志、思惟及び直観……………(第二册 一〇一(237) — 一四(280))…須永 克己
 中世音樂觀概説……………(第二册 一〇二(281) — 一四(293))…岡 頼三
 文學の體系……………(第二册 一〇三(294) — 一七(309))…中井 正一
 發言型態と聽取型態……………(第二册 一〇四(310) — 一七(330))…和辻 哲郎
 並にその藝術的展望……………(第二册 一〇五(318) — 一七(338))…和辻 哲郎
 日本語に於ける……………(第二册 一〇六(343) — 一八(433))…稻津 紀三
 梵文雅識二十論……………(第三册 一(344) — 一七(458))…相原 信作
 和譯並びに註解……………(第三册 一(344) — 一七(458))…相原 信作
 カントの第一ア……………(第四册 一(471) — 一五(517))…戸坂 潤
 ノチノミーの概念……………(第四册 一(471) — 一五(517))…戸坂 潤
 部と先験的理論……………(第四册 一(471) — 一五(517))…戸坂 潤
 「問題」に關する理論……………(第四册 一(471) — 一五(517))…戸坂 潤
 主に立場の概念の批判として必要なる分析に限る……………(第四册 一(471) — 一五(517))…戸坂 潤
 實質的價値論……………(第五册 一(539) — 一五(614))…三宅 剛一
 數學の批判……………(第五册 一(539) — 一五(614))…三宅 剛一
 數の對象性……………(第五册 一(539) — 一五(614))…三宅 剛一
 二つの言葉の……………(第五册 一(539) — 一五(614))…三宅 剛一
 解釋に就て……………(第五册 一(539) — 一五(614))…三宅 剛一
 一實驗的方法としての先験的方法……………(第五册 一(539) — 一五(614))…三宅 剛一
- シエリングの哲學的……………(第六册 一(677) — 一四(724))…赤松 元通
 方法について(未完)……………(第六册 一(677) — 一四(724))…赤松 元通
 家族結合關係の基礎……………(第六册 一(677) — 一四(724))…赤松 元通
 一現象學的討論……………(第六册 一(677) — 一四(724))…赤松 元通
 アリストテレスの形而上……………(第七册 一(739) — 一六(766))…後藤 孝弟
 學に於ける本質の概念……………(第七册 一(739) — 一六(766))…後藤 孝弟
 ソクラテス以前の……………(第七册 一(739) — 一六(766))…後藤 孝弟
 哲學に於ける……………(第七册 一(739) — 一六(766))…後藤 孝弟
 ビュシスの意味……………(第七册 一(739) — 一六(766))…後藤 孝弟
 一岩崎氏に答ふ……………(第七册 一(739) — 一六(766))…後藤 孝弟
- 中論觀三相品の……………(第八册 一(789) — 一三(811))…稻津 紀三
 研究及び解釋……………(第八册 一(789) — 一三(811))…稻津 紀三
 反省的判斷力の對象界……………(第八册 一(789) — 一三(811))…稻津 紀三
 宗教體驗の二様態……………(第八册 一(789) — 一三(811))…稻津 紀三
 辨證法の論理(未完)……………(第九册 一(889) — 一五(942))…田邊 泰三
 世界觀の問題(未完)……………(第九册 一(889) — 一五(942))…田邊 泰三
 ギュエーの「時……………(第九册 一(889) — 一五(942))…田邊 泰三
 間觀念の生成」……………(第九册 一(889) — 一五(942))…田邊 泰三
 一般者の自己……………(第十册 一(1017) — 一四(1051))…西田幾多郎
 限定と自覺……………(第十册 一(1017) — 一四(1051))…西田幾多郎
 實數の領域と連續……………(第十册 一(1032) — 一五(1091))…三宅 剛一
 プラトンのイ……………(第十册 一(1032) — 一五(1091))…三宅 剛一
 デアに就いて……………(第十册 一(1032) — 一五(1091))…三宅 剛一
 藤 樹 學……………(第十册 一(1032) — 一五(1091))…三宅 剛一
 一その發展とその意義……………(第十册 一(1032) — 一五(1091))…三宅 剛一
 二つの區別と……………(第十册 一(1032) — 一五(1091))…三宅 剛一
 根源的事實……………(第十册 一(1032) — 一五(1091))…三宅 剛一
 一メーヌ・ドゥ・ピランの「考察」……………(第十册 一(1032) — 一五(1091))…三宅 剛一

第十五卷 昭和五年

シエリングの哲學的方法について(系前)……………(第一册一(1)―三(3))…赤松 元通

スピノーザ哲學の方法に就て……………(第一册五(5)―一〇(10))…鳥 芳夫

ニーコラーウスのクサーヌス……………(第一册一〇九(109)―一一二(112))…服部英次郎

……………(第三册七三(73)―一〇〇(100))

……………(第五册七三(73)―一一三(113))

原作と複製……………(第二册一(125)―三(145))…植田 壽藏

世界觀の問題(系前)……………(第二册三(146)―六(207))…高田 岩男

……………(第四册一(329)―六(389))

……………(第九册一〇(917)―一七(962))

……………(第十册五(1081)―一一(1137))

……………(第十二册一(1229)―五(1278))

意味の擴張方向並にその悲劇性……………(第二册八四(205)―九(217))…中井 正一

張彥遠の論畫(系前)……………(第三册一(221)―四(263))…伊勢孝一郎

ロースの構造……………(第三册四(264)―五(291))…久保虎賀壽

デイルタイの倫理學思想……………(第四册六(390)―九(422))…田中 照

西田先生の教を仰ぐ……………(第五册一(439)―四(468))…田邊 元

Existenzialismusと Ideal-Realismus……………(第五册四(469)―七(504))…佐々木 勳

内容・作用・對象……………(第六册一(547)―四(592))…下程 勇吉

起信論に於ける認識實踐の三想……………(第六册五(593)―九(636))…廣瀬 文家

「ヘーゲル」論……………(第六册九(637)―一〇(656))…脇坂 光次

「理解」の理解……………(第七册一(689)―三(740))…西田幾多郎

表現的自己の自己限定……………(第八册一(779)―三(793))…西田幾多郎

中世繪畫様式の展開に就ての一考察……………(第七册五(741)―六(769))…園 毅三

フォルケルト……………(第七册五(761)―一〇(770))…長田 新

「體驗及びその客觀化」としての歴史……………(第八册一八(796)―二六(824))…船山 信一

哲學的眞理概念の形式とその變遷……………(第八册八(865)―一〇(888))…カツシイラー 由良哲次郎

藝術の自律性に就て……………(第九册一(891)―三(916))…植田 壽藏

カントの物自體とその由來……………(第九册七(963)―一四(1024))…高橋 道生

「ナトルプに於ける」主觀性」の問題に就いて……………(第十册一(1027)―五(1080))…錦川 義富

義務闘争の問題……………(第十册一(1141)―三(1172))…田中 照

……………(第十二册五(1279)―七(1301))

機能概念の美……………(第七册五(1174)―七(1210))…中井 正一

學への寄與……………(第七册五(1174)―七(1210))…中井 正一

現代文化の争(ジューメル)……………(第十册八〇(1220)―八三(1227))…伊達 四郎

……………(第十二册七(1302)―九(1321))

第十六卷 昭和六年

プラトンに於ける
 意義・想起及對話
 法の教育の意義並
 にその相互關係
 人間の相の下に……(第一冊 56—101)(102) …… 小田 清
 —カント倫理學の研究—
 全體性と感情……(第一冊 104(103)—106(136)) …… 佐藤 幸治
 哲學的教育學と經
 驗的教育學との止
 揚點について……(第二冊 1(141)—10(144)) …… 伊藤 猷典
 「純粹理性批判」の存
 在論的解釋について
 —理想力の分析に關する—の準備的考察—
 ……(第二冊 11(165)—15(192)) …… 脇坂 光次
 直觀空間の先驗的
 構造(ベックア)
 ……(第二冊 19(3)—26(318)) …… 下村實太郎
 歴史哲學の地位その1
 (前言的なもの)
 ……(第三冊 1(323)—10(352)) …… 船山 信一
 辯證法に於けるシ
 ライエルマツヘル
 ……(第三冊 3(353)—21(394)) …… 渡邊 泰三
 海外通信……(第三冊 27(293)—28(300)) …… 白井 二尙
 カントに於ける「人格」
 と「人間性」(未完)
 ……(第四冊 1(307)—16(322)) …… 和辻 哲郎
 ヘーゲルの歴史哲學……(第四冊 27(333)—35(371)) …… 島 芳夫
 —
 義務闘争の問題
 に對する一補遺
 —
 現象存在の問題に關し
 ……(第四冊 2(372)—23(398)) …… 田中 照
 批判主義に於ける
 自由の問題(未完)
 ……(第四冊 27(399)—31(428)) …… 中林嘉太郎
 homo sapiens ……(第四冊 31(429)—30(456)) …… 西田 積文
 人間學
 ……(第四冊 31(429)—30(456)) …… 西田 積文
 斐ヒテ哲學を流
 るゝ人格の意識
 ……(第四冊 31(457)—32(500)) …… 柳川謙十郎
 マックス・ウェー
 ーバー……(第五冊 1(509)—28(566)) …… 重松 俊明
 社會學方法論
 —
 理念理論を中心として—

宗教の傳統と
 その他の問題……(第五冊 5(367)—20(398)) …… 渡邊 泰三
 カール・フイリッ
 プ……(第五冊 27(399)—29(406)) …… 藤田 貞次
 モーリッツの美學
 ……(第七冊 27(92)—28(135)) …… 藤田 貞次
 カントに於ける「*Notion*
 と *Doktrin*」の記録に……(第六冊 1(613)—11(634)) …… 中井 正一
 つづ
 ……(第六冊 11(635)—20(675)) …… 船山 信一
 ヘーゲルの論理學に於
 ける存在・本質・概念の
 聯關を中心として
 ……(第八冊 7(893)—10(923)) …… 船山 信一
 永遠の今の自己限定……(第七冊 1(729)—12(791)) …… 西田幾多郎
 哲學の渡端(未完)
 ……(第八冊 1(819)—15(853)) …… 久保虎賀壽
 熊澤蕃山の教育思想……(第八冊 27(854)—29(892)) …… 後藤 三郎
 熊澤蕃山の教育思想……(第十冊 7(1104)—12(1117)) …… 後藤 三郎
 擊辭的存在……(第九冊 1(928)—12(956)) …… 澤瀉 久敬
 —
 「一彼」と云ふ言葉
 の意味について
 ……(第十冊 1(1033)—12(1079)) …… 高坂 正顯
 ……(第十冊 1(1121)—12(1156)) …… 高坂 正顯
 プラトンは如何に
 哲學し始めたか
 ……(第十冊 4(1080)—21(1103)) …… 後藤 孝弟
 法と外の辨證……(第七冊 2(1206)—12(1248)) …… 寺尾 勇
 ヘーゲルの絕對觀念論……(第七冊 1(1253)—12(1336)) …… 田邊 元
 目的論的・表現的
 辨證法的(未完)
 ……(第七冊 2(1337)—12(1395)) …… 高山 岩男
 本質觀照・絕對知
 ……(第七冊 12(1396)—12(1436)) …… 船山 信一
 歴史的認識
 ……(第七冊 12(1437)—13(1467)) …… 脇坂 光次
 ヘーゲルに於けるイ
 デアと辨證法(未完)

第十七卷 昭和七年

カントに於ける「人格」(未完)……………(第一冊 一(71)―三(32))…和辻 哲郎
 プラトンのド……………(第一冊 三(33)―五(72))…杉 正俊
 ライブニッツに於ける個性の問題……………(第一冊 五(73)―一三(112))…山本 哲次
 自愛と他愛及び辨證法……………(第二冊 一(123)―二(150))…西川幾多郎
 陶治の自發性(未完)……………(第二冊 二(151)―六(190))…前田 博
 アウグステイヌスの形而上學の將來……………(第二冊 六(191)―八(206))…ヂルソンの
 目的論的(未完)……………(第五冊 五(553)―七(573))…長澤信壽譯
 辨證法的(未完)……………(第三冊 三(230)―七(285))…高山 岩男
 感情の深さの次元……………(第三冊 七(286)―一三(332))…佐藤 幸治
 美術史は作風……………(第四冊 一(341)―五(377))…植田 壽藏
 の歴史なるか……………(第四冊 一(341)―五(377))…植田 壽藏
 哲學の發端(未完)……………(第四冊 三(378)―八(421))…久保虎賀譯
 パビロニヤ人……………(第四冊 八(422)―九(438))…中原與茂九郎
 のロコス觀……………(第四冊 八(422)―九(438))…中原與茂九郎
 ―ヘラクレスのロコス觀の原型―
 ヘーゲルに於けるイデア……………(第四冊 九(439)―一四(484))…脇坂 光次
 アと辨證法(未完)……………(第四冊 九(439)―一四(484))…脇坂 光次
 ケルンエンシュ……………(第四冊 一五(485)―一六(496))…秋葉 貞二
 タイナーの逝去……………(第四冊 一五(485)―一六(496))…秋葉 貞二
 カント就職論文考……………(第五冊 一(491)―三(493))…天野 貞祐
 數理哲學の一方針……………(第五冊 一五(494)―一七(522))…下村寅太郎
 自覺、綜合、自然……………(第六冊 一(581)―七(617))…下村寅太郎
 我、我、我……………(第八冊 一(797)―五(846))…下村 勇吉
 社會(未完)……………(第九冊 一(907)―一七(923))…下村 勇吉
 我、我、我……………(第六冊 一五(518)―一七(571))…重松 俊明
 ―テオドール・リットを中心として―

フェリックス・ククリツゲル氏「體験全態と心的構造」……………(第六冊 九(672)―九(679))…岩井勝二郎
 意識と存在(未完)……………(第七冊 一(683)―三(744))…伊達 四郎
 批判主義に於ける自由の問題(未完)……………(第七冊 三(745)―七(767))…中林嘉太郎
 リチャーズの文藝批評論……………(第八冊 五(847)―七(878))…フランデル・
 直捷的にあるもの……………(第七冊 六(788)―一〇(788))…李 敬河譯
 獲生祖徠の教育基礎論……………(第八冊 八(879)―一〇(904))…船山 信一
 シェリングの積極哲學……………(第九冊 一八(924)―一五(960))…高橋 俊乘
 學について(未完)……………(第十冊 一(999)―二(1085))…赤松 元通
 意志自由問題……………(第十冊 一(999)―二(1085))…赤松 元通
 の一つの解決……………(第十冊 七(1069)―一〇(1104))…高橋 敬視
 世界觀說論……………(第十冊 一〇(1105)―一三(1136))…船山 信一
 岡式「時間」から岡式「世界」へ……………(第十一冊 一(1143)―二(1220))…川邊 元
 高橋教授著「全體の立場」に因む……………(第十一冊 七(1221)―一〇(1251))…山内 得立
 拙著批評に答ふ……………(第十一冊 七(1221)―一〇(1251))…山内 得立
 デイルタイの世界觀論……………(第十二冊 一五(1288)―一八(1361))…石田 仁
 陶治の共同體……………(第十二冊 九(1362)―一〇(1382))…前田 博

關係概念と人格性……………(第一冊 一(1)一六(61))…澤瀉 久敬
 —アムランの哲學の方法に就いて—

目的論的、表現的、辨證法的(兼前)……………(第一冊 三〇(32)一六(96))…高山 岩男
 (第二冊 一七(41)一三七(131))
 (第四冊 四(37)一八(48))

スピノーザに於けるアントロポロギの要求……………(第一冊 九(97)一三(119))…笠 實
 (第二冊 元(132)一五(175))

形式社會學に對する一つの批評について……………(第二冊 一(125)一六(140))…岩崎 吳郎

— 價値の形式と價値の内容 —

アリストテレス形而上學の主題とその構成……………(第二冊 至(176)一三〇(214))…藤井 義夫
 (第六冊 四〇(591)一四〇(633))

シユリングの積極哲學……………(第三冊 一(217)一五(267))…赤松 元通

ケルシエンシユダイナ—の初期教育論に於ける公民教育、勞作學校性格教育の概念……………(第三冊 五(368)一七(313))…秋葉 貞二

藝術解釋學の二三……………(第三冊 九(314)一四(323))…徳永 郁介

十八世紀における美の概念性的の問題……………(第四冊 一(329)一五(373))…井島 勉

倫理學の存在論的課題……………(第四冊 八(409)一三(445))…島 芳夫

新物理學の自然像に於ける實證主義(試論)……………(第五冊 一(451)一五(475))…下村寅太郎

我、我—汝……………(第五冊 四(476)一六(513))…重松 俊明
 (第六冊 一(542)一四(590))

ヘーゲルに於けるイデアと辨證法(兼前)……………(第五冊 四(514)一六(536))…脇坂 光次

シユリングの歴史哲學考……………(第七冊 一(645)一三(679))…勝田 守一

アリストテレスに於ける眞理概念の發展……………(第七冊 五(680)一三〇(764))…藤井 義夫

アリストテレス……………(第八冊 一(771)一六(826))…西谷 啓治
 (第十冊 四(1036)一四(1089))
 —アリストテレスに於ける哲學の概念—

國家と教會(問題の成立)……………(第八冊 五(827)一四(875))…澤ノ・ケウ—
 —近代神學の理解のための教理史的研究—

カントに於ける實踐……………(第九冊 一(879)一六(942))…野田 又夫

現代に於ける人間中心主義とその對策……………(第九冊 至(943)一四〇(980))…山谷 省吾
 —石田徹次氏の「基督教の文學觀」を讀む—

知識社會學の課題……………(第十冊 一(983)一四(1025))…樺 俊雄

意識と存在(兼前)……………(第十冊 四(1026)一七(1055))…伊達 四郎

アウグスチヌスに於ける惡の問題……………(第十一冊 一(1093)一六(1160))…松村 克己

デイルタイの文藝手法論に就いて……………(第十一冊 五(1161)一四〇(1193))…徳永 郁介

非人稱判斷に就いて……………(第十二冊 一(1203)一三(1244))…下程 勇吉

デュルケムにおける道德社會學と社會學的道德論……………(第十二冊 三(1233)一六(1268))…田中 照

種々の時間の關係に就いて……………(第十三冊 七(1269)一八(1291))…上田 大助

第十九卷 昭和九年

近代に於ける自然の論理……………(第一冊 一(1)―全(82))…佐藤 省三
 ギリシヤ數學の古典的理論に於ける直觀と思惟……………(第一冊 六(86)―10頁(104))…シュテツセル下村寅太郎譯

愛……………(第二冊 一(121)―三(132))…波多野精一

アリストテレスの時間論……………(第二冊 三(133)―五(173))…熊野達六郎

時代的背景とプラトンのイデア論……………(第二冊 五(174)―八(208))…鹿野 治助

アナロギア思想の位置……………(第三冊 一(327)―三(364))…山内 得立

神學者としてのパウロ……………(第三冊 五(365)―六(388))…山谷 省吾
―パウロ神學の意義について―

アリストテレス……………(第三冊 三(389)―八(374))…バインツト藤井義夫譯

ファイヒテ哲學の根本原理に關する一つの考察……………(第四冊 一(327)―三(333))…木村 素衛

ファイヒテの絶對我について……………(第四冊 二(354)―四(388))…柳田謙十郎

社會的道德の理論(未完)……………(第五冊 一(423)―三(460))…島 芳夫

美的なるものにおける藝術の位置……………(第五冊 五(461)―七(493))…井島 勉
―カント及び獨逸理想主義美學の一考察―

藝術に於ける「兒童的なもの」……………(第五冊 七(494)―九(514))…外山卯三郎
―特に兒童の繪畫について―

辨證法的な一般者……………(第六冊 一(521)―四(569))…西川幾多郎
―第七冊 一(539)―五(594)―八(613)―四(613)―

實踐的時間の超越……………(第六冊 五(570)―八(601))…谷山 隆夫
―内的構造―
 第三冊 五(575)―九(610)

陶冶の自護性(空前)……………(第六冊 二(502)―10頁(628))…前田 博
―自護的成長と可塑性―

普遍に就いて……………(第七冊 五(635)―六(737))…島津 勤
―カントとヘーゲルを中心に―

人間の本質と人間學……………(第七冊 100(738)―116(756))…竹下 直之
―第八冊 八(848)―10頁(871)―

神と人間の問題(未完)……………(第八冊 四(814)―七(847))…片山 正直
 問題の人ソクラテス……………(第八冊 103(872)―113(880))…服部英次郎
―(ロス)―

藝術史の立場と文化史の立場……………(第九冊 一(883)―三(917))…植田 壽藏
―第十冊 一(1081)―三(1069)―

史家の課題について……………(第九冊 八(971)―11頁(996))…ザイルヘルム・フ泉井久之助譯

デイルタイと現代の獨逸哲學(シュテツセル)……………(第九冊 三(1013)―四(1024))…服部英次郎

カントに於ける藝術の問題……………(第十冊 10(1070)―六(1138))…中島榮次郎

社會存在の論……………(第十一冊 1(1179)―六(1240))…山邊 元
―哲學的社會學試論―

アリストテレスの認識論的思想の發展(未完)……………(第十一冊 三(1241)―11頁(1294))…藤井 義夫
―アリストテレスの認識論研究への一寄與―

アリストテレスの友愛の哲學(エルヌスト・ホフマン)……………(第十一冊 12(1295)―16頁(1308))…服部英次郎

現象學と批判哲學……………(第十三冊 九(1403)―11頁(1428))…下程 勇吉

社會存在の論理(衣前)……(第一册 一)一巻(67)……田邊 元
—哲學的社會學試論—

アリストテレスの構想論……………(第一册 六)一三三(122)……西谷 啓治
—アリストテレスに於ける哲學の概念—

歴史的時間……………(第二册 一)一三三(179)……樺 俊雄
神と人間の問題(衣前)……(第二册 四)一八〇(124)……片山 正直
時間と實在……………(第二册 一〇)一三三(252)……上田 大助

マイスター・エックハルト(エーリヒ・ゼーベルク)……………(第二册 四)一八〇(238)……服部英次郎

歴史的認識……………(第三册 一)一三三(329)……高坂 正顯
社會的道德の理論(衣前)……………(第三册 三)一三三(340)……鳥 芳夫

自由と必然……………(第三册 七)一三三(387)……山崎 秀爾
—ヘーゲルを中心として—

デイルタイとヘーゲル……………(第三册 一〇)一三三(413)……服部英次郎
(シュテンツェル)

知的直観と辨證法……………(第四册 一)一三三(427)……赤松 元通
—シェリングの「序論—

プラトーンに於ける知識への道……………(第五册 六)一三三(562)……長澤 信謙
(第六册 四)一三三(680)……八丸(721)
(第七册 一)一三三(765)……三(791)

「テオアネティクス」研究……………(第五册 六)一三三(612)……原 光雄
最近に於ける精密自然科學の基礎的變革

トマスによる存在の種々の意味……………(第五册 七)一三三(613)……フランク・マイヤ
服部英次郎譯

積極的事實について……………(第六册 一)一三三(633)……赤松 元通

集合論の所謂「矛盾」に就て……………(第六册 六)一三三(722)……近藤 洋逸
—循環論法の時味—

歴史的眞理と歴史的認識の方法……………(第七册 二)一三三(792)……山眞 哲次
—ウイールヘルム・フオン・フンボルト—

宗教藝術の問題……………(第八册 一)一三三(877)……上野 昭夫
—宗教藝術に於ける宗教的なるもの—

信仰の論理……………(第八册 二)一三三(900)……片山 正直
—神と人間の問題—

古代及び中世の西洋美術に對する東方の影響に就て……………(第八册 七)一三三(947)……小林太市郎
(第九册 七)一三三(1056)……九丸(1079)
(第十册 七)一三三(1443)……一三三(1470)

電子と陽電子の理論……………(第八册 七)一三三(969)……下村寅太郎
佛敎涅槃の特異性……………(第九册 一)一三三(983)……羽溪 了諦

高次の方向量の論理……………(第九册 二)一三三(1009)……佐藤 省三
プラトン哲學に於けるアブリオリスムスの問題……………(第九册 六)一三三(1080)……服部英次郎譯
—ニコライ・ハル

種の論理と世界圖式……………(第十册 一)一三三(1105)……田邊 元
—絕對媒介の哲學への途—

印度に於ける蓮華喻研究の方法……………(第十册 二)一三三(1160)……本田 義英
—特に法華經を題として—

數學的方法の構成に及ぼせるプラトーンの影響……………(第十一册 一〇)一三三(1322)……ソルムゼン
長澤信謙譯

感情の煩悩的性格……………(第二册 一(一)―五(35))…佐藤 幸治

知覺形而上學の問題……………(第一册 五(36)―十(70))…土井虎賀壽

デカルトの形而上學……………(第二册 七(71)―一〇(101))…野田 又次

地方的社會圈とし……………(第二册 一(5)―八(125))…白井 二尙

ての故郷と郷土……………(第四册 一(347)―五(404))…白井 二尙

淨土教思想の中……………(第五册 一(471)―六(522))…白井 二尙

觀哲學的解明……………(第二册 九(193)―一三(231))…向田 永靜

トーマス・アクキナス……………(第二册 二(22)―五(38))…服部英次郎

世界觀の社會學……………(第三册 一(245)―五(269))…樺 俊雄

パラドックス再論……………(第六册 三(612)―五(630))…樺 俊雄

自證的眞實態への道……………(第八册 三(500)―九(551))…樺 俊雄

アリストテレスの道……………(第三册 六(270)―五(302))…近藤 洋逸

アリストテレスの思想の……………(第三册 五(303)―九(343))…山本 清幸

アリストテレスの認識論の……………(第四册 五(405)―八(434))…藤井 義夫

シエリングの藝術哲學……………(第四册 八(435)―一五(461))…松下 武雄

正理學派に於ける量論……………(第五册 三(333)―一〇(376))…松尼 義海

性と血……………(第六册 一(381)―三(411))…高山 岩男

超數學の本質に就て……………(第七册 一(471)―三(517))…高山 岩男

存在の判斷的性格と……………(第六册 六(340)―一〇(382))…ベルナイス

判斷の存在的性格……………(第七册 四(717)―五(734))…土井虎賀壽

物心の關係に就いて……………(第七册 六(723)―八(751))…上田 大助

「理念型」構成の論理……………(第八册 九(800)―一三(822))…上田 大助

知覺論……………(第八册 一(767)―三(799))…安田 行雄

「アウグステイヌス」の國の歴史觀……………(第九册 一(807)―七(923))…土井虎賀壽

歴史に於ける辨證的と産出的……………(第九册 二(924)―六(962))…松村 克己

論理の社會存在論的構造……………(第十册 四(1042)―九(1091))…山良 哲次

多價命題計算學に就て……………(第十册 七(1327)―九(1377))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

歴史的基礎……………(第十册 九(1092)―一三(1116))…山良 哲次

第二十二卷 昭和十二年

宗教・歴史・文化……………(第一冊 一(1)―七(15))…西谷 啓治

知覚論 (第一部 ゲンタル 心理学(蒙前))……………(第一冊 八(16)―一〇(30))…土井虎賀壽

空義より三性説へ……………(第一冊 一(1)―六(36))…長尾 雅人

藝術的表現の意義……………(第二冊 一(101)―四(144))…河本 敦夫

推古彫刻史序説……………(第二冊 五(145)―七(167))…蓮實 重康

量子力学に於ける観測に就て……………(第二冊 六(168)―八(188))…武谷三男譯
アインシュタイン 其他

實踐と對象認識……………(第三冊 一(197)―四(236))…西田幾多郎
―歴史的世界に於ての認識の立場―

感情の存在論的構造……………(第三冊 五(245)―七(267))…鳥 芳夫
ジャン・ルカジェ ヴィイツ

命題論理學の歴史……………(第三冊 七(268)―九(290))…三川 博雄譯

カントの先天總合判斷の最高原則につして(未完)……………(第四冊 二(318)―五(344))…大西 友太
第四冊 三(312)―四(335)

十字架と薔薇……………(第四冊 七(368)―九(388))…平下欣一譯
―一つの薔薇の読み―

カントの歴史觀……………(第五冊 五(438)―七(464))…内田 文雄

プラトーンに於ける數學と形相論との關係……………(第五冊 七(465)―九(487))…トネアリツツ
長澤信壽譯

美の深さ……………(第六冊 一(491)―三(511))…植田 嘉藏
第六冊 二(495)―三(511)

宗教的自覺 (未完)……………(第六冊 四(536)―六(554))…片山 正直
第六冊 五(539)―六(559)

自然數論の無矛盾性證明……………(第六冊 七(565)―八(578))…近藤 洋逸
―C・ゲンツェンの表紙―

マクス・シェーラーの政策論と……………(第七冊 一(581)―三(607))…田中 照
政治論(未完)

アリストテレスに於ける認識論的思想の發展(蒙前・未完)……………(第七冊 五(608)―七(633))…藤井 義夫
―「アリストテレスの「認識論」研究への一寄與―

原始インド・アールヤ人の思潮とアタルヴァ・ヴェーダ……………(第八冊 三(732)―五(774))…岩本 裕
―アタルヴァ・ヴェーダ研究序説―

量子論の諸問題……………(第八冊 一〇(801)―一二(807))…湯川 秀樹

原子論に於ける因果律……………(第八冊 二四(808)―二五(819))…ボ1ア
―物理的實在の量子力學的記述は完全と考へられ得るか―

物理的世界内に於ける個體性と交互作用……………(第九冊 六(891)―八(906))…ルイドロブイ
眞方敬道譯

種の論理の意味を明にす……………(第十冊 三(940)―五(981))…田邊 元
第十冊 一(915)―二(930)

第九回萬國哲學會の印象……………(第十冊 七(1005)―一〇(1009))…澤瀉 久敬

アリストテレスに於ける nous とししての psyche……………(第十冊 七(1051)―九(1085))…高橋 享
―ヘルゲンに於ける三つの自我に就て―

人格の問題……………(第十冊 七(1086)―一〇(1122))…横山 巖

相對性理論をめぐる認識論的諸問題(未完)……………(第十冊 一〇(1123)―一二(1144))…近藤 洋逸
第十冊 八(1133)―一〇(1140)

デカルトに於ける延長…(第一冊 一(1)―五(5))…三宅 剛一

主體の哲學と倫理の問題…(第一冊 五(5)―八(8))…柳田謙十郎
 (第二冊 六(180)―八五(159))
 (第三冊 三(224)―四(247))

相對性理論をめぐる認識論的諸問題(承前)…(第一冊 八(8)―一〇(110))…近藤・洋逸
 (第二冊 六(180)―七(216))
 (第三冊 三(224)―四(247))
 (第四冊 七(669)―九(689))

宗教的自覺(承前)…(第二冊 一(115)―五(149))…片山 正直
 (第四冊 一(279)―四(324))

現實存在の根據としての空…(第二冊 五(150)―六(179))…向田 永靜

行爲と論理…(第三冊 一(203)―三(223))…島 芳夫
 (第五冊 一(383)―五(407))
 (第七冊 一(369)―三(393))
 (第十冊 二(921)―四(962))
 (第十一冊 一(1081)―四(1120))

歴史と自由(未完)…(第四冊 四(225)―六(346))…竹下 直之

社會哲學への試圖…(第五冊 三(408)―六(443))…淡野安太郎

陽明思想の倫理的考察…(第五冊 六(444)―一〇(490))…保田 清

カントの先天總合判斷の最高原則について(承前・未完)…(第六冊 一(493)―三(526))…大西 友太

観ることに於ける言語…(第六冊 五(327)―六(359))…河本 義夫
 眞智と解脫…(第六冊 六(360)―九(391))…松尾 義海
 —Nyayasthāna-śāstraを中心として—

批評の藝術史の意味…(第七冊 一(625)―五(668))…井島 勉
 (第八冊 三(723)―六(772))
 —希臘美術を中心として説たる—

概念と自由…(第八冊 一(693)―三(722))…平下 欣一
 —ヘーゲル哲學の内在的解明—

有無の關係に就いて…(第八冊 八(773)―一〇(799))…上田 大助

形式論理の現實的根據に就いて…(第九冊 一(803)―三(825))…高山 岩男
 (第十冊 一(989)―三(1013))

於ける認識論的思想の發展(承前)…(第九冊 三(826)―六(870))…藤井 義夫
 (第十冊 八(1166)―一五(1197))
 —「アリストテレスの認識論」研究への一寄與—

二種の「テアエ」…(第九冊 六(871)―七(880))…長澤 信壽

高山岩男氏の「哲學的人間學」について…(第九冊 九(881)―一七(889))…柳田謙十郎

永平正法眼藏の哲學…(第十冊 一(892)―二(920))…田邊 元

數學の形而上學的系譜について(一)…(第十冊 七(963)―九(986))…下村實太郎

プロトレプテ…(第十一冊 三(1014)―五(1039))…田中美知太郎

實踐的の意味(未完)…(第十一冊 五(1040)―八(1077))…由良 哲次

マクス・シェーラーの政策論と政治論(承前)…(第十一冊 四(1121)―八(1165))…田中 照

第二十四卷 昭和十四年

普通學としての數……………(第一册 一(1)―三(23))…下村實太郎
一 數學の形而上學的系譜の序論(1)―
 世界像のトボ……………(第一册 二(24)―三(38))…土井虎賀壽
 ロギ一試論……………(第一册 四(39)―五(97))…山川 次郎
 疑へないもの……………(第一册 六(99)―七(128))…九鬼 周造
 驚きの情と偶然性……………(第二册 一(39)―三(135))…大西 友太
 カントの先天總合判斷の最高原則に……………(第二册 三(129)―六(159))…大西 友太
ついで(卷前)
 實踐的の意味(卷前)……………(第二册 六(160)―九(197))…山良 哲次
 ある庭石の視覚構造……………(第三册 一(203)―三(232))…植田 壽藏
(第四册 一(307)―三(340))
 表象の強度に就いて……………(第三册 三(233)―六(270))…大脇 義一
 プロトレパチ……………(第三册 六(271)―一〇(303))…田中美知太郎
コス(卷前)……………(第十册 三(958)―五(983))
 神と世界……………(第四册 三(341)―六(382))…松村 克己
一 基督教神學序説への一試論―
 アリストテレス……………(第四册 七(383)―一〇(423))…アンリ・ベルグソン
の場所論……………(第五册 九(499)―一〇(527))…五十嵐道六郎譯
 ライブニッツに於ける個體と世界……………(第五册 一(431)―四(472))…三宅 剛一
(第六册 一(505)―九(637))
 孟子と荀子とに於ける性説に就いて……………(第五册 四(473)―六(498))…保田 潜
 日常性について……………(第六册 一(539)―三(570))…黄 金穂
一 現象學的試論―
 歴史と自由(卷前)……………(第六册 三(571)―五(594))…竹下 直之
 柳田謙十郎氏の「辨證法的世界の倫理」を讀む……………(第六册 一〇(638)―一〇(645))…島 芳夫

歴史における理念……………(第七册 一(647)―二(667))…樺 俊雄
(第八册 一(731)―三(772))
 近世自然法思想の由來とその運命……………(第七册 二(668)―六(732))…畑 喜望
 禪と實有的有及無……………(第七册 七(733)―一〇(746))…上田 大助
 生活と教育……………(第八册 三(773)―五(802))…篠原 陽二
一 ベネクトゥーへの回顧―
 數學「基礎論」……………(第八册 三(803)―七(830))…近藤 洋逸
一 その未だ問題と意義―
 先驗論理の現實的根據に就いて(未完)……………(第九册 一(833)―三(864))…高山 岩男
 倫理と倫理學と倫理學者一實存哲學的倫理學への一序論……………(第九册 三(865)―五(897))…田中 照
 原始佛教に於ける「智」の概念……………(第九册 六(898)―九(925))…谷山 隆夫
 國家的存在の論理……………(第十册 一(927)―三(957))…田邊 元
(第七册 一(997)―三(1018))
(第十册 一(1091)―三(1120))
 三顯轉入に就つて(未完)……………(第十册 三(1019)―五(1068))…武内 義範
 科學の價値と本質……………(第十册 七(1069)―一〇(1079))…ヤスパリス
行爲の表現的性格……………(第十册 八(1079)―一〇(1084))…柳田謙十郎
一 木村篤徳著「表現論」に就いて―
 高坂正顯著「カント」……………(第十册 八(1085)―九(1089))…谷山 隆夫
 印度論理學派に對する瑜伽說の影響……………(第十册 三(1121)―五(1146))…松尾 義海
 ヘーリング著「ヘーゲル」第二卷……………(第十册 七(1170)―八(1174))…グロツクナー
一 平下欣一譯
 片山正直著「倫理學新講」を讀む……………(第十册 八(1175)―八(1175))…川村喜久治

第二十五卷 昭和十五年

文化の本質と教育の本質……………(第一册一(89)―二(106))…木村 素衛

有と知……………(第一册三(93)―六(61))
 (第二册三(124)―八(170))…山田 次郎
 (第七册九(629)―一七(149))
 (第九册六(809)―一七(819))
 (第十册七(834)―一六(908))

離接的全體……………(第一册六(72)―七(72))…下程 勇吉
―九思賢著「人間と質存」讀後―

岡崎義惠著「日本文藝の様式」……………(第一册五(73)―九(79))…河本 教夫
 高坂正顯著「カント解釋の問題」……………(第一册〇(80)―八(85))…淡野安太郎
 禪の構造と鎌倉武士……………(第二册二(107)―五(123))…坂田 吉雄
 數學論序説……………(第二册六(171)―九(180))…近藤 洋逸
―寛え書き風に―

稻富氏の著書……………(第二册二(151)―六(186))…鹿野 治助
「無と直観」

中觀瑜伽論證の歴史的意義に就いて……………(第三册一(189)―三(221))…山口 益
 プロメテウス……………(第三册三(222)―七(265))…長尾 久敬
 (第四册三(322)―七(357))

自我、他我、人間界の認識……………(第三册六(286)―九(285))…岡不二太郎
 (第四册四(328)―八(373))
―その認識的基礎の追究―

瞬間と反復……………(第四册一(287)―三(321))…谷山 隆夫

先驗論理の現時的根據について……………(第五册一(379)―三(420))…高山 岩男

マイネツケ「歴史的感覚と歴史の意味」……………(第五册七(450)―八(459))…堀 喜翠

無の本質の實證的研究……………(第五册八(460)―九(467))…武内 義範
―山口隆男著「望と辨證法」を讀む―

アリストテレスに於ける人間存在と道德的行爲……………(第六册一(471)―四(512))…鳥 芳夫
 (第六册二(486)―七(523))
 三類轉入に就いて……………(第六册三(513)―六(536))…武内 義範
―(緊密・未完)―

行爲の基礎……………(第六册六(537)―九(566))…柳田謙十郎
 (第七册三(604)―六(628))
 (第八册四(705)―七(729))

悲劇と人間存在……………(第七册一(571)―三(603))…大島 康正
 (第八册一(665)―四(704))
 務臺理作者「表現と論理」……………(第七册六(656)―九(663))…谷山 隆夫
―波多野先生著「宗教哲學序論」を讀みて―

正しき宗教哲學への道……………(第八册六(730)―九(742))…片山 正直
―波多野先生著「宗教哲學序論」を讀みて―

人種、民族、國民……………(第九册一(745)―三(781))…高山 岩男
 教育の主體……………(第九册三(782)―六(808))…前田 博
 永遠・歴史・行爲……………(第十册一(823)―四(845))…田邊 元
 (第十一册一(939)―三(949))
 (第十二册一(985)―三(1016))

自由に就いて……………(第十二册二(931)―四(952))…岸畑 殖夫
 世界の秩序形式と人間存在……………(第十二册四(953)―七(982))…グラーフ・フクハイム
―觀想的世界體驗―

シェリングの歴史的自……………(第十二册三(1017)―五(1041))…大西 友太
然とハイデッガー

スペースの歴史的人間……………(第十二册三(1017)―五(1041))…大西 友太

アリストテレスに於ける可能概念の諸相
 (第一冊 一(1)―四(41))…安藤 孝行
 三願輸入に就いて(未完)
 (第一冊 四(42)―六(60))…武内 義範

教育的現實……………
 (第一冊 六(61)―九(91))…森 昭
 (第二冊 六(156)―九(183))…
 (第三冊 六(252)―九(291))…
 (第七冊 五(1087)―九(1134))…

空間の數學と形而上學……………(第二冊 一(93)―三(121))…下村寅太郎

意識に主體があるか……………(第二冊 三(122)―五(153))…高橋 敬祝

機智・機鋒及び酒脱の視覚構造……………(第三冊 一(185)―三(214))…植田 壽藏

單純なる道……………(第四冊 五(227)―五(331))…澤瀉 久敏

共通感覺(アリ)……………(第四冊 六(332)―八(378))…井狩 克

ストテレス……………(第五冊 五(413)―五(432))…大友 芳雄

カントに於ける宗教の本質……………(第五冊 一(379)―三(412))…大友 芳雄

ヘーゲルの宗教哲學……………(第五冊 五(433)―九(472))…高橋 互

人間と經濟……………(第六冊 一(473)―三(506))…島 芳夫

親鸞他力説の理解……………(第六冊 三(507)―七(530))…平下 欣一

現象學に於ける社會の把握……………(第六冊 七(531)―一〇(576))…内田 文雄

想起・反復・期待……………(第七冊 一(581)―四(626))…大島 康正

―主體的人間の現象學―

物と心……………(第七冊 四(627)―五(655))…山田 次郎
 (第八冊 四(717)―五(734))…
 (第九冊 七(810)―九(835))…
 (第十冊 七(836)―九(861))…
 (第十一冊 五(927)―六(1015))…

ヘーゲル論理學に於ける客觀的判斷の問題……………(第八冊 一(677)―四(716))…安 浩相

現實の形而上性……………(第九冊 五(737)―七(839))…土井虎賀壽

世界知の限界と自由……………(第十冊 一(857)―三(877))…ヤスバリス 野田又夫譯

實存概念の發展……………(第十冊 三(878)―四(903))…田邊 元

概念―概念に於ける言語の媒介(未完)……………(第十一冊 一(923)―五(996))…飯倉龜太郎

「無」との對論……………(第十一冊 九(1016)―九(1042))…長尾 雅人

プラトーン哲學……………(第十二冊 一(1063)―五(1086))…三井 浩

資料論(未完)……………(第十二冊 一(1063)―五(1086))…三井 浩

―プラトーンに於ける哲學的精神の發展序説―

第二十七卷 昭和十七年

歴史的世界の構造……………	(第一冊 一 (71) — 二 (21))	高山 岩男
アリストテレスの無限論……………	(第二冊 一 (85) — 二 (21))	高山 岩男
概念—概念に於ける……………	(第一冊 一 (63) — 二 (83))	復倉龜太郎
言語の媒介(黎明)……………	(第二冊 一 (23) — 二 (46))	復倉龜太郎
ヘーゲルと國家……………	(第二冊 三 (47) — 二 (45))	前田 博
「世界觀と國家觀」……………	(第二冊 二 (66) — 二 (70))	大島 康正
福音の三一論的構造……………	(第三冊 一 (181) — 三 (212))	北森 嘉藏
獨創性に就いて……………	(第三冊 三 (213) — 五 (234))	澤瀉 久敬
高山岩男氏「文 化類型學」讀後……………	(第三冊 八 (268) — 九 (271))	下程 勇吉
都市國家の成立……………	(第四冊 一 (273) — 三 (304))	山内 得立
良心と惡……………	(第八冊 一 (891) — 四 (931))	武藤 一雄
物性の論理……………	(第四冊 七 (339) — 八 (354))	矢内原伊作
ヘーゲルの精神現象學に於ける 「超智知の成立に關する」 —及びその周圍—	(第五冊 一 (357) — 四 (396))	植田 壽藏
プラトーン哲學資料論……………	(第五冊 四 (397) — 五 (431))	三井 浩
プラトーンに於ける哲學的發展序論— (巻前)	(第六冊 四 (492) — 五 (525))	三井 浩
印度論理學に於ける 三種の比量の變遷……………	(第五冊 七 (432) — 一〇 (459))	松尾 義海
念佛論序說……………	(第六冊 一 (463) — 二 (491))	敬磨
—選擇集を中心として—	(第七冊 二 (476) — 五 (503))	敬磨
	(第八冊 二 (560) — 六 (595))	敬磨
印度淨土思想……………	(第六冊 六 (536) — 八 (570))	色井 秀護
の一斷斷而……………	(第八冊 二 (596) — 六 (730))	色井 秀護
—往生本願の變遷より考察したる—	(第九冊 三 (748) — 四 (771))	色井 秀護
道德の秩序……………	(第七冊 一 (531) — 五 (575))	鳥 芳夫
經濟の秩序……………	(第九冊 一 (723) — 二 (747))	鳥 芳夫
スピノチスムの論理……………	(第七冊 五 (606) — 七 (628))	竹内 真知
沙漠的自然……………	(第九冊 五 (772) — 七 (801))	小野 隆祥
—學士學的試論—		
未開種族の神話……………	(第十冊 一 (803) — 三 (835))	堀 喜聖
—機能主義の方法—	(第十冊 四 (832) — 六 (961))	堀 喜聖
藝術哲學の基礎問題……………	(第十冊 三 (836) — 六 (868))	西村 嘉彦
—クローチエ研究への對察—	(第十冊 六 (1047) — 九 (1076))	西村 嘉彦
デカルトの Cogito, ergo sum. の哲學史……………	(第十冊 五 (869) — 八 (888))	澤瀉 久敬
的一考察……………		
アリストテレスに於ける靈魂の構造 (未完)……………	(第十一冊 七 (962) — 八 (978))	安藤 孝行
イエスの「神の國」……………	(第十一冊 一 (981) — 二 (999))	松村 克己

歴史の形而上學……………(第一册 一(7)―二(17))…高坂 正顯
 のための一章……………(第一册 一(7)―二(17))…高坂 正顯
 人間の本質的諸……………(第一册 一(7)―二(17))…高坂 正顯
 特性とその關聯……………(第二册 三(31)―四(41))…下程 勇吉
 美的自律性の……………(第一册 三(31)―四(41))…下程 勇吉
 先驗論的背景……………(第一册 三(31)―四(41))…下程 勇吉
 ―カント美學研究―
 野崎廣義著「懺悔……………(第一册 六(66)―七(70))…伊達 四郎
 としての哲學」……………(第一册 六(66)―七(70))…伊達 四郎
 イエスの「神の……………(第二册 一(73)―二(106))…松村 克己
 國」(未完)……………(第二册 一(73)―二(106))…松村 克己
 「たけの解釋……………(第三册 一(148)―二(170))…植田 壽藏
 ―短歌における―……………(第三册 一(148)―二(170))…植田 壽藏
 アリストテレスに於……………(第三册 二(171)―三(206))…安藤 孝行
 ける靈魂の構造(未完)……………(第三册 二(171)―三(206))…安藤 孝行
 ニイチエ哲學……………(第三册 三(207)―七(219))…黒田 一郎
 の方法序説……………(第三册 三(207)―七(219))…黒田 一郎
 ―内題を求むる心―……………(第三册 三(207)―七(219))…黒田 一郎
 因果律の包感……………(第四册 一(221)―二(247))…羽溪 了諦
 倫理と全體の理念……………(第四册 二(248)―五(271))…鳥 芳夫
 美的理念と藝……………(第五册 二(248)―五(271))…鳥 芳夫
 術史の理念……………(第六册 一(315)―四(344))…井島 勉
 社會の成立……………(第六册 一(315)―四(344))…井島 勉
 本佛の哲學……………(第六册 一(315)―四(344))…井島 勉
 ―特に天竺に就て―……………(第六册 一(315)―四(344))…井島 勉
 國民文化に就て……………(第七册 一(373)―二(391))…木村 素衛
 民族の諸規定……………(第八册 一(439)―三(460))…木村 素衛
 (第七册 三(392)―四(411))…白井 二尙

鈴木大拙博士著……………(第八册 六(48)―七(506))…釘宮 武雄
 「淨土宗思想論」……………(第八册 六(48)―七(506))…釘宮 武雄
 歴史的世界の倫理……………(第九册 一(509)―三(530))…鳥 芳夫
 致行信證に於ける……………(第九册 二(531)―四(557))…武内 義範
 致の概念(未完)……………(第九册 二(531)―四(557))…武内 義範
 神人と人神(第一部完)……………(第十册 三(612)―四(631))…大島 康正
 身體性の構造……………(第十册 三(612)―四(631))…大島 康正
 現實の論理(第一部完)……………(第十册 一(579)―二(611))…下程 勇吉
 三相 tayankhana……………(第十册 一(579)―二(611))…下程 勇吉
 の問題……………(第十册 一(579)―二(611))…下程 勇吉
 ―原始佛敎涅槃のための一説論―……………(第十册 一(579)―二(611))…下程 勇吉
 神人呼應……………(第十一册 一(721)―三(735))…松村 克己
 道德的目的論……………(第十一册 二(736)―三(755))…岸畑 豊
 ヘーゲル哲學の根本問……………(第十一册 三(756)―五(772))…上田 泰治
 題に就ての省察(未完)……………(第十一册 三(756)―五(772))…上田 泰治
 ―現實の論理、第二部―……………(第十一册 三(756)―五(772))…上田 泰治

第二十九卷

昭和十九年

神祕主義の問題……………(第一册 一(1)―二(2))…西谷 啓治

―信仰と理性(1)―

氣の人間技術學……………(第一册 六(36)―五(54))…佐藤 幸治

カムケの構想……………(第一册 五(25)―八(21))…町澤 直治

國家と世界……………(第二册 一(67)―二(73))…木村 素衛

―一つの断章―

教行信證に於ける
教の概念(兼題)……………(第二册 三(114)―五(136))…武内 義範

ヘーゲル哲學の根本問
題に就ての省察(兼題)……………(第三册 三(169)―五(183))…上田 泰治

―風實の論理、第二部―

支那に於ける文
藝復興論と經學……………(第四册 一(185)―二(195))…重澤 俊郎

美的自律性の
藝術史的展開……………(第四册 一(196)―二(222))…小川 長成

前篇―宗教藝術の美的自律性
後篇―美的自律性の自覚

現存在と我々の双歡……………(第五册 一(241)―二(256))…田中 照

身體……………(第六册 二(306)―四(332))…澤瀉 久敬

―フロンツ哲學史の一面―

東洋の繪畫に於ける
「疏と密」の體……………(第七册 一(323)―二(338))…植田 壽藏

の解釋……………(第七册 一(407)―二(426))…

無着の唯識哲學に
於ける中心思想……………(第七册 一(437)―二(442))…鈴木 宗忠

……………(第七册 三(498)―四(515))…

哲學論文集第四補遺……………(第八册 一(361)―二(373))…西田幾多郎
藥隱武士道哲學管見……………(第八册 一(376)―二(388))…田中 孝雄
時代區分の超
歴史的根拠……………(第七册 三(443)―五(455))…大島 康正
數學の哲學的基礎附け……………(第七册 一(467)―三(497))…西田幾多郎

獨逸神祕主義 と獨逸哲學	(第一冊 1(1) - 10(20))	西谷 啓治
藝術的世界の形 成と發生形態	(第一冊 2(21) - 只(48))	金田 民夫
細胞の起源	(第一冊 究(5) - 只(38))	桑田 義備
御進路案歴史 哲學ニツイテ	(第二冊 1(61) - 四(64))	西川幾多郎
私の論理に いて(総記)	(第二冊 五(65) - 六(66))	西川幾多郎
寸心先生日記抄(未完)	(第二冊 七(67) - 八(86))	狩野 直喜
西田君の憶ひ出	(第二冊 七(87) - 元(89))	狩野 直喜
「善の研究」の 生れるまで	(第二冊 三〇(90) - 四六(108))	鳥簪 俊三
一寸心先生傳資料の一節	(第二冊 究(109) - 五(133))	山内 得立
場所とコーラ	(第二冊 究(133) - 一(151))	松尾 義海
印度に於ける 業論について	(第三冊 一(153) - 一(151))	松尾 義海
美的教育論としてのシ ラ1の人間形成の理念	(第三冊 一八(152) - 四(176))	小田 武
知の第二面	(第三冊 四(177) - 六(192))	山田 次郎
一個性的自覺としての美	(第三冊 五(201) - 六(217))	山田 次郎
思考の心理學的意義	(第四冊 一(211) - 一〇(230))	矢田部達郎

アリストテレースに 於ける實踐の構造	(第四冊 二(231) - 五(260))	安藤 孝行
一 靈魂語彙の聯關	(第四冊 二(231) - 五(260))	安藤 孝行
精神病者に見られ る時間體驗の障礙	(第五冊 究(263) - 六(326))	デーブツツテル 村上 仁譯
知性の法則(テッサン)	(第六冊 一(339) - 一(354))	矢田部達郎
精神疲労の一考察	(第六冊 一(355) - 三(368))	岡原 太郎
固定現象に關する 比較心理學的考察	(第六冊 三(369) - 四(384))	八木 晃
心理學に於ける二 三の科學論的問題	(第六冊 四(385) - 五(392))	末永 俊郎
「ゼルマン」教につきて	(第七冊 一(393) - 九(403))	足利 惇氏
佛教に於ける知識の 確實性の論究(未完)	(第七冊 二(421) - 三(430))	武邑 尙邦
倫理學の現代的使命	(第八冊 一(443) - 一〇(462))	鳥 芳夫
確實性	(第八冊 二(463) - 三(477))	長澤 信壽
一 單アウクステイ スス研究 その一	(第八冊 三(463) - 三(477))	長澤 信壽
美的批判(未完)	(第九冊 一(501) - 二(519))	植田 壽藏
起信の課題	(第九冊 一(501) - 二(519))	植田 壽藏
精神分裂病と神經 症との關聯に就て	(第十冊 一〇(520) - 一〇(545))	久松 貞一
ペスタロッツチに於ける 人間學的思想の發展	(第十冊 一八(578) - 一(597))	村上 仁
「美的判斷力批 判」の課題	(第十一冊 三(634) - 三(664))	松田 義哲
「美的判斷力批 判」の課題	(第十一冊 一(697) - 一六(712))	吉田 忠勝

經學の本質……………(第一冊 一)―二〇(30)……………重澤 俊郎
 作品の場面……………(第一冊 三)―元(38)……………河本 敦夫
 佛教に於ける知識の
 確實性の論究(譯述)……………(第一冊 元)―壹(35)……………武邑 尙邦
 美の批判(索前)……………(第二冊 一)―四七(87)……………植田 壽藏
 ……(第二冊 一)―一六(50)……………
 ……(第二冊 三)―八八(104)……………相原 信作
 課せられてゐるもの……………(第二冊 三)―八八(104)……………
 科學とヒューマニズム……………(第二冊 元)―壹(35)……………野田 又夫
 一問題の素描―
 内證傳達の様式……………(第三冊 九)―四七(79)……………石津 照璽
 一天皇教祖論の解釋―
 社會法の性格……………(第三冊 四)―一五(194)……………磯村 哲
 ……(第九冊 元)―五(359)……………
 一近代民法と社會法―
 印度美術を賦
 く二つの精神……………(第四冊 一)―三〇(324)……………上野 照夫
 アリストテレスの……………(第四冊 三)―五(346)……………松本 厚
 フュシスに就いて……………(第五冊 四)―三〇(326)……………
 ……(第五冊 四)―三〇(321)……………
 寸心先生日記抄(索前)……………(第五冊 一)―三九(384)……………白井 二尙
 ……(第六冊 一)―三三(340)……………
 民族發達の諸段階……………(第五冊 一)―三九(384)……………
 ……(第六冊 一)―三三(340)……………
 大脳機能の科學的基礎……………(第五冊 元)―壹(35)……………本川 弘一
 ……(第六冊 二)―六(341)……………吳(368)……………大友 芳雄
 提婆における因中……………(第六冊 二)―六(341)……………
 ……(第六冊 二)―六(382)……………小野喜三郎
 有果無果の問題……………(第六冊 四)―三〇(382)……………
 ……(第七冊 一)―三三(383)……………松村 克己
 行動と物質……………(第七冊 一)―三三(383)……………
 ……(第八冊 一)―四一(474)……………
 福音の論理……………(第七冊 三)―四〇(432)……………竹内 長知
 ……(第七冊 三)―四〇(432)……………
 スピノザにおける……………(第七冊 三)―四〇(432)……………
 ……(第七冊 三)―四〇(432)……………
 「自己」の問題……………(第七冊 三)―四〇(432)……………
 ……(第七冊 三)―四〇(432)……………
 リポ1に於ける創造的……………(第七冊 三)―四〇(432)……………西村 嘉彦
 想像力の分析(未完)……………(第七冊 三)―四〇(432)……………

美的感情につ
 いての一考察……………(第八冊 二五)―四七(97)……………金田 民夫
 一カントの趣味論(關聯して)―
 人間の條件反……………(第八冊 四)―壹(303)……………古武 彌正
 射について……………(第八冊 四)―壹(303)……………
 ……(第九冊 一)―五〇(52)……………七(531)……………長尾 雅人
 中觀哲學の根本……………(第九冊 一)―五〇(52)……………
 ……(第九冊 一)―五〇(52)……………
 的立場(未完)……………(第九冊 一)―五〇(52)……………
 ……(第九冊 一)―五〇(52)……………
 「學問」の語義について……………(第九冊 四)―三〇(367)……………木村 俊夫
 ……(第九冊 四)―三〇(367)……………
 宗教藝術の基本的契機……………(第十冊 一)―五(390)……………河本 敦夫
 ……(第十冊 一)―五(390)……………
 「大學の理念」の……………(第十冊 三)―五(390)……………森 昭
 史的展開(一)……………(第十冊 三)―五(390)……………
 ……(第十冊 三)―五(390)……………
 シラアの美的立場……………(第十冊 三)―五(390)……………吉田 忠勝
 ……(第十冊 三)―五(390)……………
 印度美術論の宗教性……………(第十冊 一)―三(645)……………上野 照夫
 ……(第十冊 一)―三(645)……………
 「美しい魂」の形成に……………(第十冊 五)―三(680)……………三(692)……………小田 武
 おけるカントの所謂……………(第十冊 五)―三(680)……………
 ……(第十冊 五)―三(680)……………
 「性格」の意義……………(第十冊 五)―三(680)……………
 ……(第十冊 五)―三(680)……………
 一人間革命における教育學の使命―
 スピノザの「エテイ……………(第十冊 一)―三(645)……………岸畑 豊
 カ」に於ける神と人……………(第十冊 一)―三(645)……………
 ……(第十冊 一)―三(645)……………
 間の關係に就て……………(第十冊 一)―三(645)……………
 ……(第十冊 一)―三(645)……………
 音楽に於ける意……………(第十冊 四)―三(680)……………張 源祥
 匠と表現(未完)……………(第十冊 四)―三(680)……………

第三十二卷 昭和二十三年

中觀哲學の根本の立場(宗道)……………(第一册一(1)―四(41))…長尾 雅人

音樂に於ける意匠と表現(宗前)……………(第一册四(2)―五(50))…張 源祥

パスカルとその生涯……………(第一册五(5)―六(68))…植元 和一
一 探求としての生一

聖アウグスティヌスに於ける回心の問題(未完)……………(第二册一(69)―八(86))…山田 晶

リボリーに於ける創造的想像力の分析(宗前)……………(第二册九(107)―一〇(132))…西村 嘉彦

大學の原型……………(第三册一(133)―二(160))…森 昭

文藝特に小説の根源的構造……………(第四册一(169)―三(215))…植田 壽藏

カント「判断力批判」成立に關する一考察……………(第六册一(327)―三(349))…西田 秀穂

カントの理性・道德・宗教……………(第七册三(413)―五(435))…大島 康正

我が國上代に於ける家族道德思想の研究一 家族名稱を手照りとせる一……………(第九册三(569)―五(582))…木村 俊夫

現實と歴史……………(第七册一(391)―三(412))…剛一

教育心理學の類型……………(第八册三(480)―五(491))…佐藤 幸治

フイヒテ法概念の吟味……………(第九册一(510)―三(545))…東 日出男

ルネッサンス期の大學……………(第九册三(546)―五(568))…森 昭
一 大學の理念にの史的展開(三)一

フレイザート……………(第十册三(603)―五(627))…堀 喜望

カントに於ける倫理と宗教の關係に就て……………(第十一册一(647)―二(664))…島 芳夫

手簡より見たる王陽明の思想大要……………(第十一册一(665)―三(682))…保田 清

認識の條件……………(第十一册三(731)―五(749))…松本 彦真
一 Fiction の形而上學への試論一

カントに於ける倫理と宗教の關係に就て(未完)
 (第一册 一(1)一六(16)) : 島 芳夫

危機神學の生成とその展開(未完)
 (第一册 一七(17)一三二(127)) : 植元 和一
 (第二册 三三(110)一四三(127))
 (第三册 三三(128)一四三(133))
 (第四册 三三(127)一四三(131))
 (第五册 三三(127)一四三(131))
 (第六册 三三(127)一四三(131))
 (第七册 三三(127)一四三(131))
 (第八册 三三(127)一四三(131))
 (第九册 三三(127)一四三(131))
 (第十册 三三(127)一四三(131))

宗教改革期下のイッツの大學
 「大學の理念」の史的展開(四)
 (第一册 六(6)一五(5)) : 磯 昭

アリストテレス存在論の基礎構造について
 (第一册 一(6)一七(8)) : 岡野留次郎
 (第二册 一(31)一五(21))
 (第三册 一(32)一五(24))
 (第四册 一(32)一五(24))
 (第五册 一(32)一五(24))
 (第六册 一(32)一五(24))
 (第七册 一(32)一五(24))
 (第八册 一(32)一五(24))
 (第九册 一(32)一五(24))
 (第十册 一(32)一五(24))

カント美學の一考察
 (第一册 一八(8)一五(10)) : 山本万治郎
 (第二册 一八(8)一五(10))
 (第三册 一八(8)一五(10))
 (第四册 一八(8)一五(10))
 (第五册 一八(8)一五(10))
 (第六册 一八(8)一五(10))
 (第七册 一八(8)一五(10))
 (第八册 一八(8)一五(10))
 (第九册 一八(8)一五(10))
 (第十册 一八(8)一五(10))

小西重直先生の教育學に就いて
 (第一册 二二(13)一三(15)) : 長田 新

中江藤樹の哲學
 (第一册 二六(15)一五(18)) : 下程 勇吉
 (第二册 二六(15)一五(18))
 (第三册 二六(15)一五(18))
 (第四册 二六(15)一五(18))
 (第五册 二六(15)一五(18))
 (第六册 二六(15)一五(18))
 (第七册 二六(15)一五(18))
 (第八册 二六(15)一五(18))
 (第九册 二六(15)一五(18))
 (第十册 二六(15)一五(18))

學校とその機能
 (第一册 三〇(19)一六(19)) : 前田 博
 (第二册 三〇(19)一六(19))
 (第三册 三〇(19)一六(19))
 (第四册 三〇(19)一六(19))
 (第五册 三〇(19)一六(19))
 (第六册 三〇(19)一六(19))
 (第七册 三〇(19)一六(19))
 (第八册 三〇(19)一六(19))
 (第九册 三〇(19)一六(19))
 (第十册 三〇(19)一六(19))

オーストラリアのトーチリズム
 (第一册 三六(21)一四(23)) : 堀 喜望
 (第二册 三六(21)一四(23))
 (第三册 三六(21)一四(23))
 (第四册 三六(21)一四(23))
 (第五册 三六(21)一四(23))
 (第六册 三六(21)一四(23))
 (第七册 三六(21)一四(23))
 (第八册 三六(21)一四(23))
 (第九册 三六(21)一四(23))
 (第十册 三六(21)一四(23))

聖アウグスティヌスに於ける回心の問題(承前)
 (第一册 四二(23)一三(20)) : 山田 品
 (第二册 四二(23)一三(20))
 (第三册 四二(23)一三(20))
 (第四册 四二(23)一三(20))
 (第五册 四二(23)一三(20))
 (第六册 四二(23)一三(20))
 (第七册 四二(23)一三(20))
 (第八册 四二(23)一三(20))
 (第九册 四二(23)一三(20))
 (第十册 四二(23)一三(20))

歴史哲學の問題(未完)
 (第五册 一(91)一三(92)) : 大西 友太
 (第六册 一(91)一三(92))
 (第七册 一(91)一三(92))
 (第八册 一(91)一三(92))
 (第九册 一(91)一三(92))
 (第十册 一(91)一三(92))
 (第十一册 一(91)一三(92))
 (第十二册 一(91)一三(92))
 (第十三册 一(91)一三(92))
 (第十四册 一(91)一三(92))
 (第十五册 一(91)一三(92))

近代哲學における宗教的要素の問題
 (第五册 三三(33)一四(34)) : 中村 正雄
 (第六册 三三(33)一四(34))
 (第七册 三三(33)一四(34))
 (第八册 三三(33)一四(34))
 (第九册 三三(33)一四(34))
 (第十册 三三(33)一四(34))
 (第十一册 三三(33)一四(34))
 (第十二册 三三(33)一四(34))
 (第十三册 三三(33)一四(34))
 (第十四册 三三(33)一四(34))
 (第十五册 三三(33)一四(34))

理論心理學に於ける意識の問題
 (第六册 一〇(34)一五(37)) : 上代 晃

墟部屋への幻想
 (第六册 四八(37)一六(38)) : 伊禮 正雄
 (第七册 四八(37)一六(38))
 (第八册 四八(37)一六(38))
 (第九册 四八(37)一六(38))
 (第十册 四八(37)一六(38))
 (第十一册 四八(37)一六(38))
 (第十二册 四八(37)一六(38))
 (第十三册 四八(37)一六(38))
 (第十四册 四八(37)一六(38))
 (第十五册 四八(37)一六(38))

思辨論理の可能性に就いて(未完)
 (第七册 一(38)一三(39)) : 山本 清幸
 (第八册 一(38)一三(39))
 (第九册 一(38)一三(39))
 (第十册 一(38)一三(39))
 (第十一册 一(38)一三(39))
 (第十二册 一(38)一三(39))
 (第十三册 一(38)一三(39))
 (第十四册 一(38)一三(39))
 (第十五册 一(38)一三(39))

美的理念について
 (第七册 三(40)一三(42)) : 今井 清
 (第八册 三(40)一三(42))
 (第九册 三(40)一三(42))
 (第十册 三(40)一三(42))
 (第十一册 三(40)一三(42))
 (第十二册 三(40)一三(42))
 (第十三册 三(40)一三(42))
 (第十四册 三(40)一三(42))
 (第十五册 三(40)一三(42))

アリストテレスに於ける知性の構造(未完)
 (第八册 一(43)一五(48)) : 安藤 孝行
 (第九册 一(43)一五(48))
 (第十册 一(43)一五(48))
 (第十一册 一(43)一五(48))
 (第十二册 一(43)一五(48))
 (第十三册 一(43)一五(48))
 (第十四册 一(43)一五(48))
 (第十五册 一(43)一五(48))

教養と有用
 (第九册 一(51)一五(54)) : 前田 博
 (第十册 一(51)一五(54))
 (第十一册 一(51)一五(54))
 (第十二册 一(51)一五(54))
 (第十三册 一(51)一五(54))
 (第十四册 一(51)一五(54))
 (第十五册 一(51)一五(54))

實存と所有
 (第十册 一(57)一三(60)) : 山内 得立
 (第十一册 一(57)一三(60))
 (第十二册 一(57)一三(60))
 (第十三册 一(57)一三(60))
 (第十四册 一(57)一三(60))
 (第十五册 一(57)一三(60))

陳那教學の課題(未完)
 (第十册 一(62)一五(63)) : 武邑 尙邦
 (第十一册 一(62)一五(63))
 (第十二册 一(62)一五(63))
 (第十三册 一(62)一五(63))
 (第十四册 一(62)一五(63))
 (第十五册 一(62)一五(63))

中江藤樹の教學
 (第十一册 一(64)一三(66)) : 下程 勇吉
 (第十二册 一(64)一三(66))
 (第十三册 一(64)一三(66))
 (第十四册 一(64)一三(66))
 (第十五册 一(64)一三(66))

多値論理學
 (第十一册 一(68)一三(70)) : 杉原 丈夫
 (第十二册 一(68)一三(70))
 (第十三册 一(68)一三(70))
 (第十四册 一(68)一三(70))
 (第十五册 一(68)一三(70))

宗教的實存の實存的課題(未完)
 (第十二册 一(70)一三(72)) : 石津 照寛
 (第十三册 一(70)一三(72))
 (第十四册 一(70)一三(72))
 (第十五册 一(70)一三(72))

「キェルケゴール」諸著作の位置と意義
 (第十二册 一(70)一三(72)) : 石津 照寛
 (第十三册 一(70)一三(72))
 (第十四册 一(70)一三(72))
 (第十五册 一(70)一三(72))

第三十四卷

昭和二十五年

宗教的實存の現
存的課題(未完)……………(第一册 一(1)―三(30))…石津 照聖

―キェルケゴール論著作の位置と意義―
思辨論理の可能性……………(第一册 三(31)―五(32))…山本 清幸
に就いて(未完)……………(第二册 一(33)―三(107))

鎌倉期浄土教の
時間論的展開……………(第一册 四(10)―五(36))…河野 憲善
―一巻の普通の念無のラナー

書評―Northrop, *The
Writing of East and
West*—Althusser, *Pro-
cedural, Habitu-
ant*—L. S. P.
求道時代の佛陀(未完)……………(第二册 一(71)―二(87))…武内 義範

アリストテレスに於
ける知性の構造(未完)……………(第二册 三(108)―四(119))…安藤 孝行
……………(第四册 四(237)―五(251))
……………(第五册 四(262)―五(285))

社會學の近況……………(第二册 五(120)―五(121))…白井 二尚
國際東洋學會
議のことなど……………(第二册 三(121)―五(128))…長尾 雅人

ヘゲルの藝術史論……………(第三册 一(133)―五(157))…植田 詩藏
陳那教皇の課題(未完)……………(第三册 四(172)―五(185))…武邑 尙邦
戦後に於ける倫
理學の諸傾向……………(第三册 五(186)―五(191))…島 芳夫

善の意味(未完)……………(第四册 一(195)―二(213))…山中美知太郎
歴史哲學の問題(未完)……………(第四册 二(214)―四(236))…大西 友太
ハイデッガーの近著……………(第四册 五(232)―六(257))…山内 得立

藝術の内容……………(第五册 一(259)―三(281))…井島 勉

危機神學の生成とそ
の展開(前・未完)……………(第五册 三(282)―五(311))…植元 和一
―近世前期フランス精神史論―

哲學研究總目次(第一卷―第三十四卷)了

後記

一、目次は、『哲學研究』各卷最終冊附載の目次を基準として、収録したが、中には各卷の本文を参照して補正乃至削除したものもある。

一、論文と本來見做されうるものと、然らざるものとは區別して表示すべきでもあつたが、いづれに屬すべきものかの裁定は單なる便宜を許さず、勿々になさるべき性質のことでないから、目次はすべて同一様式の下に収録した。

一、『哲學研究』各卷本文の頁附けには、往々にして誤りが見られたが、目次の頁指示はそのままを踏襲するほかなかつた。各冊別の頁附けと各卷毎の通し頁附けとを併記したから、本文を一方のみで檢出し得ない場合は他方を参照せられたい。

一、この總目次に於ては――

(未完) は、次卷以降に繼續せられるものを、
(承前) は、(未完) を承けて、完結、乃至未完結のまゝ中絶するものを、

(承前・未完) は、(未完) を承けて、なほ完結せず、更に次卷以降に繼續せられるものを、
表示し、『哲學研究』に於て慣用せられて來たこれら文字の用法とは、必ずしも相蔽はない。

一、各卷毎に發行年を記したが、第二十九卷以降の部に於ては、兩者は嚴密には一致しない。詳細は表紙裏面の「照合表」に就て見られたい。

一、限られた紙面に、凡そ三十五年に亙る『哲學研究』の總目次を盛らんとしたため、甚だ見惡い體裁のものになつたことは申譯ない。然し、この程度のものにでも仕上げ得たのは、弘文堂印刷部の少なからざる好意によるところである。尙、本總目次の作成に當つては、文學士酒井修、桑本彰俊の兩君を煩した。併記して謝意を表したい。

昭和二十六年一月二十五日 印刷納本
昭和二十六年二月一日 發行

編集人

京都大學文學部内

右代表者
三村勉

發行人

酒井明
東京都千代田神田駿河臺四ノ四

印刷人

鈴鹿幸保
京都市田中西浦町四〇

印刷所

弘文堂印刷部
京都市田中西浦町四〇

發行所

株式會社

弘文堂

東京都千代田神田駿河臺四ノ四

(哲學研究第四百號別冊)